

8
9
F
MAY

JICA LIBRARY



1029066[6]

国際協力事業団	
受入 月日 '86.11.05	108
登録No. 15602	92.9
	MCF

序 文

インドネシア国看護教育プロジェクトは昭和53年11月に5年間の協力期間で開始され、インドネシア国保健省、教育訓練センターを中心に看護教育技術の向上と看護教員養成校の教育内容の充実に重点をおいて協力をしてきた。さらに地域住民の保健衛生に直結したヘルスサービス体制促進のために、看護教員の養成を通じた保健看護婦の大量養成を目的として当プロジェクトは60年11月まで2年間延長され、(1)看護教育カリキュラムの開発、(2)看護教育教材の開発、(3)教育方法の改善、(4)教員養成校への実践応用、の4点に活動を集中して協力が行われた。

当事業団はこれまでの協力の成果等を評価するため矢野正子厚生省看護課長を団長とするエバリュエーション調査団を昭和60年8月14日から26日まで派遣した。本報告書は同調査団の調査結果をとりまとめたものである。これまで本プロジェクトの支援機関として多大のご協力をいただいた厚生省および(財)国際看護交流協会等の関係各位並びに今次の調査団員に対し深甚なる謝意を表する次第である。

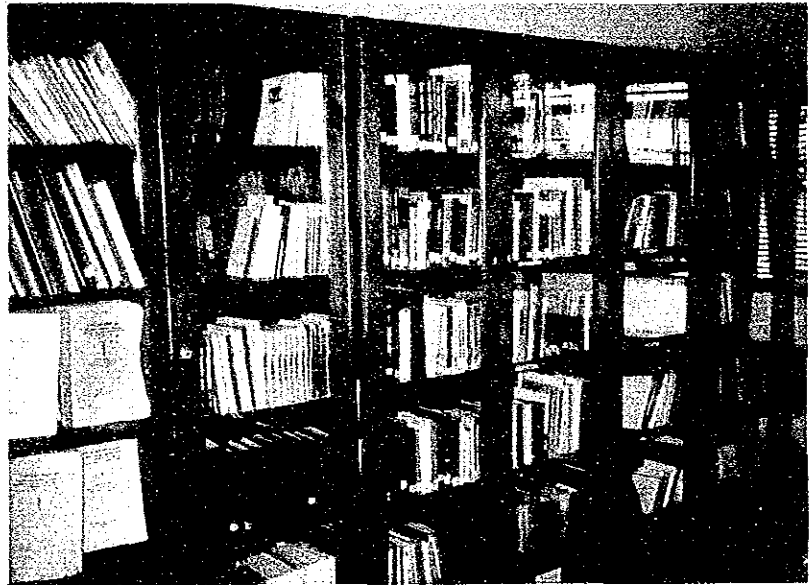
昭和61年 4 月

国際協力事業団

理事 末 永 昌 介



Johannes 校長兼 DCNE 所長と
調査団



SGP JAKARTA 図書館
(日本より寄贈されたインドネシア語
の書籍類)



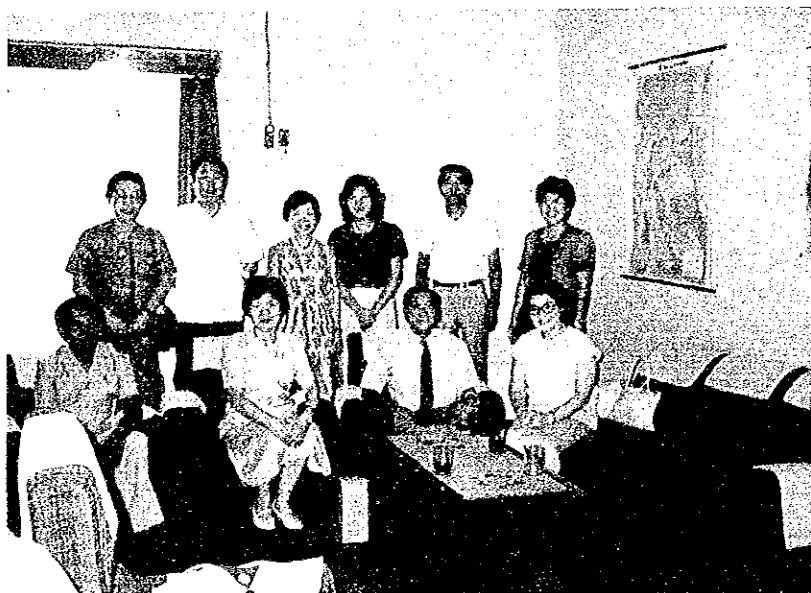
SPK Persahabatan 授業風景



SPK Cipto Mangukusmoにて
教師達と



SPK Cipto Mangukusmo 実習風景



Ujung Pandang 総領事館にて

目 次

I	調査団派遣の経緯	1
II	調査団の派遣目的、構成及び日程	5
	1. 目的	5
	2. 構成	5
	3. 日程	5
III	プロジェクトの実績	9
	1. 日本側投入実績	9
	(1) 総表	9
	(2) 各種調査団の派遣	9
	(3) 専門家の派遣	11
	(4) 機材の供与	12
	(5) カウンターパートの受入れ	13
	2. 年度別実績表	14
	3. インドネシアの概要	16
	(1) 概況	16
	(2) プロジェクトの背景	16
	(3) 無償資金協力	17
IV	プロジェクトの評価	18
	1. 看護教員養成所新カリキュラムの改善と評価	18
	(1) SGPカリキュラム	19
	(2) ウジュンパンダン校の実際	19
	2. 教育内容、教授法改善の評価	29
	(1) テキストとその活用	29
	(2) 視聴覚教材とその活用	30
	(3) 今後の教材開発に望まれること	30
	3. 中堅技術者養成対策事業とその効果	32
	(1) 現任教育訓練	32
	4. 専門家派遣の効果	35
	(1) チームリーダーについて	35
	(2) 専門家について	35
	(3) 専門家の主な業務	36

5.	帰国研修員の定着状況と活動	37
6.	供与機材の活用・管理状況	38
	(1) 視聴覚機器と教材	38
	(2) 看護実習用教材	39
	(3) 車 輦	39
7.	インドネシア側のプロジェクト評価	41
	概要訳及びインドネシア語	
V	総 合 評 価	50
1.	インドネシアの看護教育	50
	(1) インドネシア看護教育の現状と将来	50
	(2) 看護教員養成の将来	50
	(3) 将来の看護教育の予想	50
	(4) 看護教員養成課程の予想	50
2.	D C N E の概要とその役割	52
	(1) 基本理念の設定	52
	(2) 活動および機能	53
	(3) 研 修 コ ー ス	53
	(4) 予 算	54
	(5) 組 織	54
3.	評価会議におけるプロジェクト評価	56
	(1) インドネシア側評価	56
	(2) チームリーダーによる評価	56
	(3) 評価調査団による評価	56
	(4) プロジェクトの終了について	57
	(5) プロジェクトの延長希望について	57
VI	資 料 編	59
	資料 1. (1) 延長討議議事録 (R / D)	61
	(2) 付帯文書	62
	資料 2. (1) 保健省の組織	63
	(2) 保健要員教育センターの組織	65
	資料 3. 看護教育開発センター職員名	67
	資料 4. 看護教員養成校の教員名	68

資料 5.	看護教員養成校の卒業生数	69
資料 6.	保健看護婦学校数	70
資料 7.	AKPER (アカデミー) 学校数	75
資料 8.	プロジェクト経過一覧表 (1979 ~ 1986)	77

1 派遣の経緯

- 1977 (昭和 52) 年 7 月 インドネシア国政府からの協力要請による事前調査団の派遣
(勝沼晴雄団長ほか 4 名)
- 1978 (昭和 53) 年 1 月 - 永野 (当時国際看護交流協会常務理事) 及び清水 (当時厚生省看護課課長補佐) 両専門家の派遣
- 1978 (昭和 53) 年 8 月 - 看護教育施設建設計画事前調査団の派遣 (平山宗宏団長ほか 5 名)
- 10 月 - 実施協議調査団の派遣 (勝沼晴雄団長ほか 3 名)
- 討議々事録 (R/D) の署名
 - 協力期間を 1978 年 11 月 3 日から 5 年間とする。
 - 協力内容を看護教育カリキュラム及び看護教育方法の改善とする。
- (注) 本調査団と同時に無償資金協力関連で基本設計調査団が派遣される (団長は勝沼先生が兼務)
- 1979 (昭和 54) 年 5 月 - 計画打合せチームの派遣 (永野団長ほか 2 名)
- 昭和 54 年度の協力計画
 - 中堅技術者養成対策事業につき R/D 追加
- 9 月 - 永野貞チームリーダー及び会津碩嗣調整員の派遣 (長期)
- 12 月 - Mrs. Mardiyah (ウジュンパンダン SGP 教員) 来日 (12/4 ~ 55. 9/30)
- 1980 (昭和 55) 年 2 月 - 小島操子専門家の派遣
- 5 月 - 第 1 回 JOINT COMMITTEE 開催
- 吉田時子 (当時厚生省看護研修研究センター所長) 及び松下和子 (聖路加看護大学教授) 両専門家の派遣 (短期)
 - SGP (看護教員養成校) カリキュラム第 1 回検討会開催 (於: ジャカルタ)
 - Mr. Soerjanto (ウジュンパンダン SGP 校長) 及び Mrs. Soeharti (スラバヤ SGP 校長) 来日 (5/17 ~ 6/16)
- 7 月 - SGP カリキュラム第 2 回検討会 (於: テロト)
- 8 月 - 藤門政子チームリーダー及び吉田谷弘専門家の派遣 (長期)
- S P K 新カリキュラム実施開始
- 9 月 - 永野チームリーダー帰任
- Dr. Isa (保健省教育訓練センター所長) 来日 (9/24 ~ 10/3)

- 1980 (昭和55)年 11月 - Mr. Siger Tamboang (スラバヤSGP教員) 及びMiss Sulastri (バンドンSGP教員) 来日 (11/20 ~ 56. 10/31)
- 12月 - 第2回JOINT COMMITTEEのため吉田及び竹内一郎 (国際看護交流協会事務局長) 両専門家の派遣
- 1981 (昭和56)年 3月 - 清水寿夫専門家 (A.V.A) の派遣 (短期)
- 4月 - 看護教育開発センター (DCNE) 及びウジュンパンダン看護教員養成校の開所式
- 国内委員会正式に設置
 - 第3回JOINT COMMITTEE開催
- 7月 - Mr. Bambang (DCNEのA.V.Aスタッフ) 来日 (7/23 ~ 10/5)
- SPK (保健看護婦養成校) カリキュラム開発委員会開催 (於: バンドンSGP)
 - SGP新カリキュラム開始
 - 第1回視聴覚教材 (於: DCNE)
- 11月 - 沢田順子専門家の派遣 (長期)
- SGPカリキュラム第3回検討会開催 (於: バンドン)
- 12月 - Mrs. Annas (ウジュンパンダンSGP教員) 来日 (12/3 ~ 57. 11. 20)
- 第4回JOINT COMMITTEE開催
 - 第2回視聴覚教材 (於: DCNE)
- 1982 (昭和57)年 2月 - SGP (看護教員養成校) カリキュラム改善のための上級コース開催 (於: ウジュンパンダンSGP)
- 3月 - 巡回指導チームの派遣 (永野貞団長ほか4名)
- 5月 - Mr. Syaefudin (DCNE) 来日 (5/21 ~ 9/1)
- 6月 - Mr. Bawano Soeyono (DCNE) 来日 (6/4 ~ 8/28)
- 8月 - 第5回JOINT COMMITTEE開催
- 会津調整員帰任
- 10月 - SPK (保健看護婦学校) カリキュラムの検討会開催 (於: ラロト)
- Miss Ani Nuraeni (ジャカルタSGP教員) 来日 (10/28 ~ 58. 10/27)
- 12月 - DCNEのスタッフが44名に増員
- 第3回視聴覚教材 (於: DCNE)
- 1983 (昭和58)年 2月 - Mr. Said Effendie (スラバヤSGP教員) 来日 (2/10 ~ 12/20)
- 3月 - Mr. Radiat (DCNE所長) 及びMr. Stia (GET総務課長) 来日 (3/3 ~ 3/27)

- 6月-評価調査団の派遣(清水嘉与子団長ほか4名 6/12~6/20)
 第5回JOINT COMMITTEE開催(評価調査団参加)
- 1983(昭和58)年 9月-SGP(看護教員養成校)カリキュラム評価, SPK(保健看護婦学校)およびAKPER(看護婦学校)カリキュラムのガイダンス作製のための上級コース開催(9/1~9/10, 於: DCNEおよびカリウラング)
 -第4回視聴覚教材(9/19, 9/30, 於: DCNE)
- 10月-機材修理調査団(八重尾団長ほか3名 10/7~10/26)
- 11月-吉田谷弘専門家帰任
 -沢田順子専門家帰任
- 12月-教材開発№18(英→イ), №19(イ), №20(英→イ)
- 1984(昭和59)年 1月-Miss Radia Atsuti(スラバヤSGP教員), Mrs. Harningsih(バンドンSGP教員)来日(1/5~7/31)
 4月-Mrs. Noertjaya(DCNE)来日(4/1~6/12)
 -森口育子専門家(看護教育)の派遣(長期)
 5月-田口忠子専門家(看護教育)の派遣(長期)
 6月-第5回視聴覚教材(6/15, 6/18, 於: DCNE)
 -CETの組織替えによりCHMEとCPETとなり, DCNEはCHMEに所属する機関として位置づけられる。職員数減
 9月-臨床実習指導者コース(9/19~10/13, 於: DCNE)
- 10月-技術交換事業としてMiss Stien(保健要員教育センター上級専門職課長)と藤門チームリーダーがタイ国訪問。同系プロジェクトとしての交流, 意見交換(10/14~10/27, 於: タイ)
 -SPK(保健看護婦学校)およびSGP(看護教員養成校)司書コース(10/28~11/26, 於: DCNE)
- 11月-Mr. Husen(ウジュンパンダンSGP校長), Mr. Johannes(ジャカルタSGP校長)来日(11/15~12/20)
- 1985(昭和60)年 1月-第6回JOINT COMMITTEE開催
 -DCNE所長にMr. Johannes 就任(ジャカルタSGP校長を兼務)
- 5月-Dr. Wattimena(保健要員教育センター所長)来日(5/30~6/7)
- 8月-看護教育プロジェクト評価調査団の派遣(矢野正子団長ほか4名, 8/14~8/26)

- 9月 - Mrs. Martini Bdanu (ウジュンパンダンSGP教員) 来日 (9/26~
61. 9/10)
- 10月 - 日本・インドネシア看護教育合同会議 (日本から4名参加10/16
~10/17, 於: ジャカルタ)
- Mr. Syahlau (保健要員教育センター企画課長) 来日 (10/28~
11/14)
- 11月 - 2日プロジェクト終了 (5年+2年延長)
- 森口育子 専門家帰任
- 12月 - 藤門政子 チームリーダー 帰任
- 田口忠子 専門家帰任

II 調査団の派遣目的、構成及び日程

1 目 的

昭和53年11月3日より開始された日本・インドネシア看護教育プロジェクトは、5年の協力期間が2カ年延長となり1985年11月2日迄となっている。プロジェクトの終了を前に、延長2年を含めた合計7カ年の技術協力の評価を行うとともに、インドネシア看護教育の発展においてプロジェクトの果たした役割を明らかにするため、調査を行う。

- 主要活動目標
- ① 看護教育カリキュラムの改善
 - ② 看護教育方法の改善
 - ③ その他必要とする看護教育向上のための援助

2 構 成

- (1) 団長 矢野正子 厚生省健康政策局看護課長
- (2) 団員 西村千代子 厚生省看護研修研究センター教務科長
- (3) " 三品照子 神奈川県看護教育大学校保健教育部長
- (4) " 豊島関子 (財)国際看護交流協会事務局
- (5) " 曳地和博 国際協力事業団医療協力部管理課

3 日 程

昭和60年8月14日～8月26日：13日間

日 順	月 日	曜 日	行 程	内 容
1	8/14	水	東京 → ジャカルタ	成田発 12:00 GA873 にて同日 17:15 ジャカルタ着 (藤門リーダー、田口専門家、JICAジャカルタ 事務所の出迎えを受ける) プレジデントホテルにて日程等打合せ
2	8/15	木	9:00 保健省保健要 員教育センター (Center for Health Manpower Education)	第1回協議 所長 Dr. Wattimena DCNE 所長兼 SGP 校長 Mr. Johannes, Mr. Iwan Irawan, Division Supply Mr. Djenal Muslih, Division Nursing Education Dr. JH Syahlan, Prog. Management 表敬及び CHIME の役割、機能、5カ年間の人材養

日順	月日	曜日	行 程	内 容
			10:20 JICA ジャカルタ事務所 11:00 日本大使館	成計画等の説明を受ける。 山村所長，西尾所員表敬 永井公使，平山一等書記官表敬，インドネシアの政治，経済及び対日貿易について説明を受ける。
3	8/16	金	8:00 保健省医務総局長 11:00 SGP Jakarta	Dr. Isa 表敬，不在のため代理より保健省の組織について説明を受ける。 ジャカルタ看護教員養成校視察，同校の組織，機能及びプロジェクトの現状と問題点等 Johannes 校長等より意見を聴取する。
4	8/17	土	インドネシア独立40周年記念日	資料整理，調査団員間打合せ
5	8/18	日	ジャカルタ→ウジュンパンダン 19:30 Asia Baru	ジャカルタ発 13:00 GA051 にて同日 16:15 (時差1時間) ウジュンパンダン着，藤門リーダー，Mr. Djenal Muslih, Division Nursing Education (CHME) 同行，(Mr. Husen SGP ウジュンパンダン校長，森口専門家出迎え) 森口専門家主催夕食会
6	8/19	月	8:00 南スラヴェン保健省，10:20 ウジュンパンダン総領事館 11:30 SGP ウジュンパンダン 14:00 SPK ウジュンパンダン ウジュンパンダン→ジャカルタ	保健省南スラヴェン支所次長 Dr. Stant 表敬 (Mr. Husen 校長，藤門リーダー，森口専門家同行)，国井総領事表敬，スラヴェン島における日本のプロジェクトの状況，ウジュンパンダン在住邦人の事情等について説明を受ける。 ウジュンパンダン看護教員養成校視察，同校の組織，機能及びプロジェクトの現状と問題点等 Mr. Husen 校長等より意見を聴取する。保健看護婦学校視察 ウジュンパンダン発 17:15 GA745 にて同日 18:25 (時差1時間) ジャカルタ着 (出口専門家出迎え)
7	8/20	火	9:00 保健要員教育センター (CHME)	第2回協議 Mrs. Stien, Chief of Division Expertise/Skills Education Dr. Syahlan, Chief of Division Program

日順	月日	曜日	行 程	内 容
			19:00 Jade Garden	Management Mr. Johannes, Chief of DCNE and SGP Mr. Djenal, Sub. Div. Nursing Education Miss Magdalena, Secretary of Head CHMEの役割, 機能, 新教育体系, 人員, 予算等 プロジェクトの現状と問題点につき質疑応答 JICA 山村所長主催夕食会
8	8/21	水	9:00 看護教育開発 センター (DCNE) 13:00-14:00	DCNEの役割, 機能, 研修会, AV教材等プロ ジェクトの現状と問題点及び「イ」側のプロジェクト 評価等について説明を受ける。DCNE建物視察 (供与機材AV教材製作室等) 看護研究講習会閉講式出席 (Dr. Wattimena CHME所長出席) 引き続き研修計画, 予算, カウ ンターパートの配置及び活躍等について説明を受け る。
9	8/22	木	8:00 保健要員教育 センター (CHME) 10:00 SPK Persahabatan 12:00 SPK Cipto Manguku- sno 16:30 19:00 ヒルトンホ テル日本館	インドネシアの学校教育とその資格, 名称等につ いて説明を受ける。 SPK Persahabatan 校視察 Mrs. H. Nismawati Smip 校長 SPK Cipto Mangukusmo 校視察 Mrs. Frieds Gruang 校長 最終評価会議に向けて調査団員打合せ, 資料整理 調査団主催夕食会
10	8/23	金	9:00 保健要員教育 センター (CHME) 11:30 JICA ジャカルタ事務所 15:00 ジャカルタ → バンドン 19:05 スカルノ・	最終評価会議プロジェクトの評価 (効果及び「イ」 側に対する提言) 報告を行う。 山村所長にプロジェクトに関する評価報告を行う 列車でSGPバンドン視察のため出発 (矢野団長, 曳地団員, 藤門リーダー除く) 矢野団長ジャカルタ発JAL722にて帰途

日順	月日	曜日	行 程	内 容
			ハッタ空港 20:00 ジャカルタ →バンドン	(藤門リーダー, 曳地団員見送り) 藤門リーダー曳地団員バンドンへ移動
11	8/24	土	8:00 州保健事務所 9:00 SGP Bandung 11:00 SPK Bandung	州保健事務所表敬 SGP Bandung 視察 Dr. Christina S. Ibrahim 校長 SGP, AKTAM 等カリキュラムについて説明を受ける。 SPK Bandung 視察
12	8/25	日	9:00 15:00 バンドン →ジャカルタ	Gunung Tangkuban Perahu 病院見学 ジャカルタへ移動
13	8/26	月	8:00	ジャカルタ発CX710にて (Hong Kong 経由) 成田着 23:00

Ⅲ プロジェクトの実績

1 日本側投入実績

(1) 総 表

年度	プロジェクト 総 経 費	調 査			機材金額	専 門 家			研修員 人 数
		年/月	区 分	金 額		人 数	金 額	人 数	
	千円			千円	千円	人	人	千円	人
52	1,817	52/7	事前調査	1,817		0	0	0	
53	3,135	53/10	実施協議	3,135	0	0	0	0	
54	63,766	54/5	計画打合	2,630	35,077	2	2	26,059	1
55	63,643				18,960	2	5	44,683	5
56	90,319	57/3	巡回指導	3,493	26,112	1	0	60,714	2
57	73,776			130	13,535	0	0	60,111	6
58	78,018	58/6 58/10	エバリエーション 機材修理	6,940	19,420	0	1	58,598	1
59	65,094				15,585	2	0	49,509	2
総計	439,568			18,145	128,689	7	8	299,674	17

(注1) 事前調査経費はタイと同時に実施したため等分し計上した。

(注2) プロジェクト総経費には研修員受入経費は含まれていない。

(注3) 専門家派遣人数は新規のみ表示する。

(注4) 中堅技術者養成対策費は専門家経費に計上されている。

(注5) 技術交換事業費(59年度)は専門家経費に計上されている。

(注6) 60年度には17,066千円に相当する機材が要請されている。

(2) 各種調査団の派遣

① 事前調査団(派遣期間:昭和52年7月12日~7月17日)

団長 勝 沼 晴 雄 (東京大学名誉教授, 国際協力事業団運営審議会委員)

団員 永 野 貞 (財団法人国際看護交流協会常務理事)

” 山 田 里 津 (三井記念病院看護学院長)

” 竹 内 一 郎 (財団法人国際看護交流協会事務局長代行)

” 小野寺 伸 夫 (国際協力事業団医療第二課長)

② 実施協議調査団(派遣期間:昭和53年10月22日~11月4日)

団長 勝 沼 晴 雄 (杏林大学副学長)

団員 吉 田 時 子 (厚生省看護研修研究センター所長)

” 永 野 貞 (財団法人国際看護交流協会理事)

- 団員 野 福 文 徳 (国際協力事業団医療協力部医療第二課職員)
- ③ 計画打合せ調査団 (派遣期間：昭和 54 年 5 月 16 日～5 月 31 日)
- 団長 永 野 貞 (財団法人国際看護交流協会理事)
- 団員 伊 藤 暁 子 (厚生省看護研修研究センター教務科長)
- ” 野 福 文 徳 (国際協力事業団医療協力部医療第二課職員)
- ④ 巡回指導調査団 (派遣期間：昭和 57 年 3 月 23 日～3 月 31 日)
- 団長 永 野 貞 (財団法人国際看護交流協会常務理事)
- 団員 都 築 公 (社会保険中央看護専門学校副校長)
- ” 日比野 路 子 (静岡県立静岡女子短期大学教授)
- ” 伊 藤 暁 子 (厚生省看護研修研究センター教務科長)
- ” 青 山 貴世美 (国際協力事業団研修事業部研修第二課職員)
- ⑤ エバリュエーション調査団 (派遣期間：昭和 58 年 6 月 12 日～6 月 20 日)
- 団長 清 水 嘉与子 (厚生省医務局看護課長)
- 団員 井 上 幸 子 (日本看護協会常務理事)
- ” 志 摩 チヨ江 (国際看護交流協会理事)
- ” 田 島 桂 子 (厚生省看護研修研究センター主任教官)
- ” 熊 倉 晃 (国際協力事業団医療協力部医療協力課長代理)
- ⑥ 機材修理調査団 (派遣期間：昭和 58 年 10 月 17 日～10 月 26 日)
- 団長 八重尾 直 忠 (国際協力事業団調達部機材第二課長代理)
- 団員 横 山 嘉 郎 (京都科学標本 (株) 教材部営業課主任)
- ” 畠 和 幸 (“ 生理模型製作主任)
- ” 竹 内 啓 史 (日本通信小野特機 (株) サービス部メンテナンス課)

(3) 専門家の派遣

年 度	氏 名	指 導 科 目	派 遣 期 間	
54	会津 硯 嗣	業 務 調 整	54. 9. 1~57. 8. 31	(1年延長) 26.
	永野 貞	チームリーダー	54. 9. 12~55. 9. 11	12
	X野 福 文 徳	中堅技術者養成 対策計画調整	54. 10. 31~54. 11. 15	0.5
	小島 操 子	外 科 看 護	55. 2. 4~55. 3. 31	2
55	吉田 時 子	看 護 教 育	55. 5. 25~55. 6. 7	0.5
	松下 和 子	"	" ~ "	0.5
	吉田谷 弘	"	55. 8. 22~58. 11. 4	(1年3ヶ月延長) 38.3
	藤 門 政 子	" (チームリーダー)	55. 8. 22~60. 11. 4	(3年3ヶ月延長) 34
	X竹 内 一 郎	計 画 調 整	55. 12. 16~55. 12. 22	27.3
	X吉 田 時 子	看 護 教 育	55. 12. 16~55. 12. 21	0.2
	清 水 寿 夫	視 聴 覚 教 育	56. 3. 20~56. 6. 19	3
56	沢 田 順 子	看 護 教 育	56. 11. 5~58. 11. 4	24
58	X森 口 育 子	看 護 教 育	59. 1. 4~59. 1. 10	1 week 0.23
59	森 口 育 子	"	59. 4. 17~60. 11. 4	18.5
	田 口 忠 子	"	59. 5. 18~60. 11. 4	2.5

(4) 機材の供与

年 度	供 与 額	主 な 機 材
54	千円 35,077	複写器, タイプライター, 万能実習用モデル人形, ポータブル心電計, 妊娠子宮模型, 助産婦キット, 人体解剖模型, 参考図書, 車輛その他
55	千円 18,960	記録式実習用モデル人形, 万能実習用モデル人形, 酸素テント, 蘇生器, ストレッチャー, 保育器, 産婦人科検診台, 助産婦キット, 車輛その他
56	千円 26,112	心音心電計, ビューレット, 検尿器機セット, 参考図書, 視聴覚教材, 車輛その他
57	千円 13,535	万能実習モデル人形, 分娩用モデル人形, 自動輸液ポンプ, 助産婦キット, VTR, タイプライターその他
58	千円 19,420	視聴覚教材, 人口呼吸訓練人形, 心電図, 吸引器, 身体検査機器セット, スライドプロジェクター他
59	千円 15,585	自動編集器, 16mmフィルムプロジェクター, ビデオデュプリケーター, 編集システム, 保育器, 人体骨格模型他
合 計	千円 128,689	

(5) カウンターパートの受入れ

Year	Name		Subject	Duration
1979	Mardiyah	SGP Ujung Pandang	Pediatric Nur.	1 year
1980	Soerjanto	SGP Ujung Pandang	Administration	1 mon.
	Socharti	SGP Surabaya	Administration	1 mon.
	Dr. M. Isa	Pusdiklat	Observation	2 wks.
	Sulastri	SGP Bandung	Pediatric Nur.	1 year
	S. Tambuang	SGP Surabaya	Med/Surg. Nur.	1 year
1981	A. Annas	SGP Ujung Pandang	Surgical Nur.	1 year
	Bambang	D.C.N.E	AVA Technic	3 mon.
1982	Syaefudin	D.C.N.E	Administration	3 mon.
	B. Soeyono	D.C.N.E	AVA Programmer	3 mon.
	A. Dachlan	SGP Jakarta	Med/Surg Nur.	1 year
	Said	SGP Surabaya	Surgical Nur.	1 year
	Sutia	Pusdiklat	Administration	3 wks.
1983	O. Radiat	D.C.N.E	Administration	3 wks.
	R. Astuti	SGP Surabaya	Pediatric Nur.	6 mon
	Harningsin	SGP Bandung	Pediatric Nur.	6 mon
1984	Noertjaja	D.C.N.E	Nursing Education	5 mon
	Johannes	SGP Jakarta	Administration	1 mon
	Husen	SGP Ujung Pandang	Administration	1 mon
1985	Dr. Wattimena	C.H.M.E	Administration	10 days.

2. 年度別実績表

<p>Fiscal 1977 (昭和52)年 7/12 7/17 └─ 事前調査 Preliminary Survey</p>	<p>Fiscal 1978 (昭和53)年 10/22 11/4 └─ 実施協議 Implementation 8/9 8/22 └─ 無償資金協力 事前調査 11/3 R/D及び Minutes 記署名 プロジェクト開始</p>	<p>Fiscal 1979 (昭和54)年 5/16 5/31 └─ 計画打合せ Planning & Adjustment 専門家 (長2 短2) 9/12 └─ 9/1 └─ チームリーダー</p>	<p>Fiscal 1980 (昭和55)年 3月 DCNE引渡 ウジユバン・ダンSGP 約15億円 専門家 (長4 (新規2) 短5) 8/21 9/11 └─ 永野 貞 藤門 政子</p>
		<p>調整員 10/31 11/15 2/4 └─ 野福文徳 小島操子</p> <p>機材供与 35,077 円 研修員受入 (10 名) 1 名 中堅技術者 15,602,000 円</p>	<p>会津 硯 嗣 8/21 3/30 5/25 6/7 12/16 12/22 3/20 └─ 吉田 時子・松下和子 吉田時子 竹内一郎 機材供与 18,960 円 研修員受入 (25.5 名) 5 名 中堅技術者 13,028,000 円</p>

Fiscal 1981 (昭和56)年	Fiscal 1982 (昭和57)年	Fiscal 1983 (昭和58)年	Fiscal 1984 (昭和59)年
巡回指導 Advisory 3/23	3/31	6/12 → エバリュエーション Evaluation 10/17 → 10/26 機材修理	6/12 → エバリュエーション Evaluation 10/17 → 10/26 機材修理
専門家(長4(新1) 短1(新0))	専門家(長4(新0))	専門家(長3(新0) 短1(新1))	専門家(長3(新2) 短0)
チームリーダー 藤門政子	調整員 会津視嗣 8/31	調整員 会津視嗣 11/4	調整員 会津視嗣 11/4
清水寿夫 6/19	吉田谷 弘 11/4	1/4 → 1/10 森口育子	4/7 5/18 → 森口育子 60.11/4 田口志子 60.11/4
機材供与 26,112円 研修員受入 (14.5mm) 2名 中堅技術者 10,405,000円	機材供与 13,535円 研修員受入 (30.5mm) 6名 中堅技術者 8,050,000円	機材供与 19,420円 研修員受入 (17.0mm) 3名 中堅技術者 7,145,338円	機材供与 15,585円 研修員受入 (2.0mm) 2名 中堅技術者 7,563,848円

3 インドネシアの概要

(1) 概 況

人 口	1 億 6,515 万人 (1985 年推定)	世界第 5 位
人口増加率	2.2 ~ 2.5 %	
死 亡 率	12.5 / 1000 (1971 ~ 1980 年平均)	
乳児死亡率	98 / 1000 (1980 年)	
病 院 数	378 (1985 年)	

A クラス (1000 床以上)	2
B クラス (750 ~ 1000)	13
C クラス (200 ~ 750)	43
D クラス (25 ~ 200)	222
E クラス (特殊専門病院)	48

保 健 所 数 (1985 年)

ヘルスセンター	5,353
(有床 20-10 床)	
サブヘルスセンター	13,636

医 療 従 事 者 の 数 (1984 / 1985 目 標 数)

医師 (歯科医含む)	11,681
大卒保健要員	1,219
看 護 婦	44,651
パラメディカル	12,011

医 師 ・ 看 護 婦 の 養 成 機 関 (1985 年)

医 学 部	国立 14 校
	私立 13 校
看 護 学 校	アカデミー校 国立 10, 地方立 3, 軍立 1,
	私立 12, 計 26
保健看護婦学校	国立 77, 地方立 15, 軍立 20,
	私立 82, 計 194
看護教員養成校	国立 4 校
大学看護学部	国立 1 校

(2) プロジェクトの背景

インドネシア国では、第 2 次及び第 3 次 5 ヶ年計画の中で地域保健の向上に重点をおき、これまで病院看護婦の養成を主とした教育であったが、保健予防にたずさわる地域看護婦

の養成を主とする方式に改めた。そのためには養成施設と多数の教師が必要であり、インドネシア政府はその援助を日本に要請した。JICAは1977年より調査団を度々派遣し、1978年11月、無償資金協力によるジャカルタの看護教育開発センター（D.C.N.E）を建設すると共に、ウジュンパンダンの看護教員養成校の新築を行うことに合意した。また技術協力による看護教育の充実をはかることが提案され、1978年11月3日に、インドネシア政府と調査団の間で議事録が作成され調印を行った。

更に本プロジェクトには業務をスムーズに運営する目的のため、およびインドネシア国の自助努力を促すねらいをもって、Local costの一部を負担するための中堅技術者養成対策費を付加することとなった。

(3) 無償資金協力

1. 看護教育開発センター（D.C.N.E）の建設
（Development Center for Nursing Education）

建設費 573,000,000 円

2. 看護教員養成校の建設（ウジュンパンダン）

建設費 926,000,000 円

2施設は1981年3月25日完成

IV プロジェクトの評価

インドネシアの看護教育は1975年の看護制度改正により、大きく変化した。すなわち、従来異なった学歴や異なった教育機関で、看護婦、助産婦、精神科看護婦等、資格別に行なわれてきた看護教育コース24種類が保健看護婦(PK, 中学校卒業後3年の教育)とアカデミー看護専門学校(高校卒業後3年の教育)の2種類となり、第2次5カ年計画PELITA IIの1974年から1978年頃にかけて学校数も416校から150校に整理統合されたことである。

その目的は、地域保健サービスに対する社会的要請に応えるため、病院における看護婦養成とともに地域住民の健康、福祉の向上に機能しうる看護婦を数多く養成するというものであり、これは国家保健計画の重要施策となってきた。

教育目標の変化とともに、従来の教育内容、教室を中心とした教育方法の改善はカリキュラム開発として緊急な課題となっていた。

本プロジェクトは、PK校教員養成の質的量的確保を目的として、また看護技術の移入により両国の相互理解を基盤として、7カ年の技術協力を行ってきた。7カ年経過した現在、教師や予算の大巾な増をはかる中で、さらに看護の向上を目ざして、次の開発の課題が、続いて検討されているのが、今日のインドネシアの看護教育の実態である。

1 看護教員養成新カリキュラムの改善と評価

インドネシアにおける看護教育プロジェクトの一環として、インドネシア看護教育における種々のカリキュラム改善は大きな課題の一つとなってきた。1979年にはじめて日本から長期専門家が派遣されてから毎年インドネシア側との協議Joint Committee Meetingにより、カリキュラム開発に関する年間プログラムがつくられるようになり、プロジェクトが深い係わりをもちながら成果をあげてきている。

検討すべきカリキュラムとしては以下のものがとりあげられているが、それぞれの開発にプロジェクトが関与している。

AKTA III 20単位3カ月・間AKPERの上に高校卒で入学する学生を教える教員になるための教職課程である。

AKPERを卒業すると教師になるため90単位取得できるが、さらに、看護教員になるために必要な単位である。教育文化省の管轄で決められる。

看護の基本	2単位
教育心理学	3単位
教育管理	2単位
カリキュラムの基本	2単位

教育方法	2単位
看護教育方法評価	3単位
上級看護技術	3単位
教育実習	3単位

SPKカリキュラム …………… 資料参照

AKPERカリキュラム …………… ”

SI (大学看護学部)カリキュラム …… 資料参照

D I (看護専門コース)カリキュラム

D II (看護専門コース)カリキュラム

D IIIカリキュラム …… 高卒入学の看護婦養成で、AKPER に比べ技術面が強化され、近い将来開校予定。

SGPカリキュラム …… 資料参照

(1) SGPカリキュラム

SGPの新カリキュラムは、1976年SGPが開始された年から実施されてきた旧カリキュラムが、基礎看護、専門看護の内容が不十分であったため、1982年3月のカリキュラム改善検討会で作成され、1982年8月SGP新入生から適用されている。改善検討会により、専門科目が5分野に整理され、ジャカルタ校・スラバヤ校では、内外科看護・公衆衛生看護のコースをもち、バンドン校・ウジュンバンドン校では母性看護/家族計画・小児看護のコースをもつことになった。これにより、専門科目の教師の養成が可能となった。しかし、精神科看護の専門科目は、まだ開設されていない。

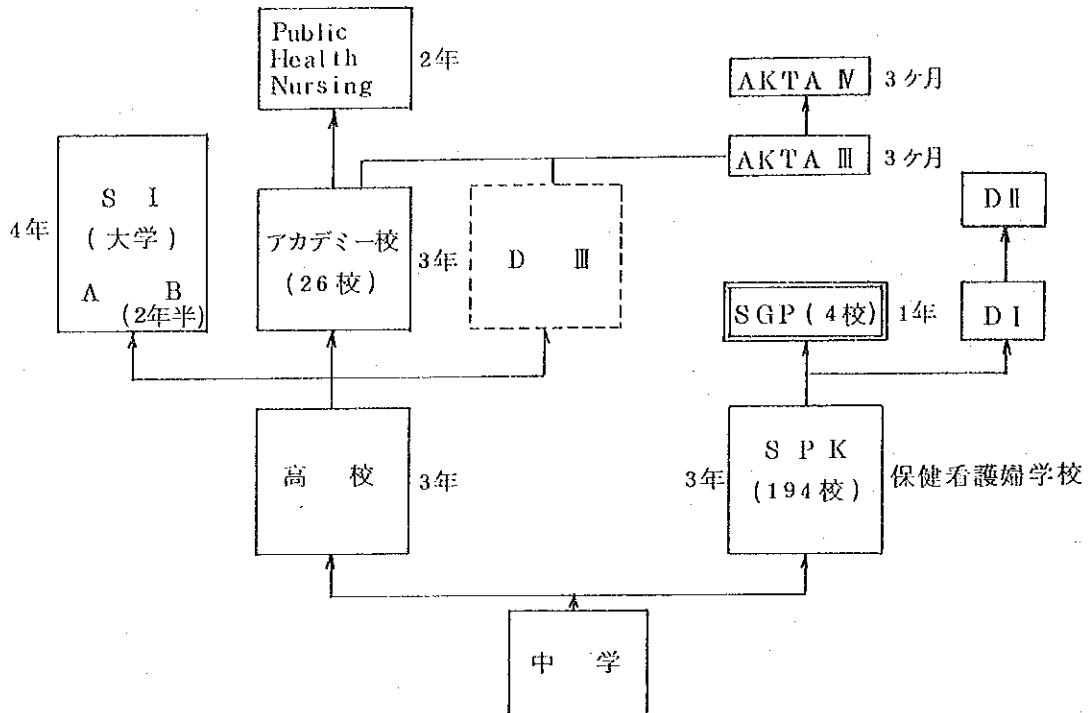
新カリキュラムの特徴や運営、1年実施しての評価等については、すでに1983年のエバリュエーション調査で述べられているが、その後一部修正されつつ、3年間このカリキュラムにより教育が行なわれており、定着してきており、特に問題はみられない。

カリキュラムの展開については、カリキュラム改善検討会により講義要領が作成されており、教師はそれに沿った教育を行っている。

(2) ウジュンバンドン校の実際

1983年より、プロジェクトが2年延長し、その際カリキュラム開発によるモデル校となったウジュンバンドン校では、1984年4月から専門家が常駐することになり、教育計画、教育内容、教育方法、教育実習、看護実習等で具体的、実践的な指導を行い効果をあげている。また、地域保健所との連携による教育実習の方法などもとり入れ、新軌軸が打ち出され、実施されてきている。

図Ⅳ-1 インドネシアの看護教育制度



- ◎ プロジェクトの主な対象は看護教員養成校 (SGP) である。
- 中卒のSPK (保健看護婦学校) が大部分であるが高卒の学校 DⅢ が開設される。
アカデミー校も年毎に数が増えている。
 - 1985年7月より S I も開設した。
 - 以上の教育以外にも旧制度看護婦に対して補習教育1年コースおよび再教育コース又は専門看護コース等もある (D I, D II)

表Ⅳ-1 看護学校数 (設置主体別) 1985年8月現在)

	国立	地方立	軍立	私立	計
アカデミー校 (AKPER)	10	3	1	12	26
保健看護学校 (S P K)	77	15	20	82	194
大学看護学部 (S I)	1	0	0	0	1
教員養成校 (S G P)	4	0	0	0	4
計	92	18	21	94	225

表Ⅳ-3 AKPER(アカデミー)カリキュラム

科 目	合計	1 年						2 年						3 年						
		1 学期			2 学期			1 学期			2 学期			1 学期			2 学期			
		T	L	PL	T	L	PL	T	L	PL	T	L	PL	T	L	PL	T	L	PL	
【一般教育】																				
1.宗教Ⅱ	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.パンデミック	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.インドネシア語	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.英語Ⅰ	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【看護科目】																				
1.看護の基礎Ⅰ	4	3	1	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. " Ⅱ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. " Ⅲ	4	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. " Ⅳ	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5.看護倫理	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【関連科目】																				
1.解剖/生理学	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.微生物学/寄生虫学	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.生化学	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.看護のための物理学	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5.心理学	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6.栄養学	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7.病態生理学	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8.薬理学	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9.インターネット社会の文化	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計 (単位)	40	18	1	1	15	1	4	40	13	2	5	13	1	6	40	14	2	4	4	1

T : 理論 L : 学内演習 PL : 実習

表Ⅳ-4 大学看護学部 (Faculty of Nursing) カリキュラム

科 目	1 年		2 年		3 年		4 年	
	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習
1 生物学	4	3	3	1	6	3	3	3
2 化学	3	2.5	3	1	6	3	3	3
3 物理学	2	1.5	3	-	5	3	-	2
4 社会学	3	3	3	2	3	3	3	3
5 心理学	3	3	3	-	3	3	3	3
6 看護概論	2	2	3	-	3	3	2	2
7 パンチャングラ	2	2	3	-	3	3	2	2
ラ	4	3	3	0.5	4	2	2	2
1 解剖学	4	3	3	0.5	3	2.5	4	4
2 生理学	4	3	3	-	3	3	6	3
3 看護の基礎概念 I	5	4	3	1	3	2	3	3
4 宗教	2	2	2	2	6	2	3	3
5 教養、文化	2	2	3	-	3	3	3	3
6 体育	2	1.5	3	-	3	3	3	3
合計(単位)	38	32.5	43	5.5	36	23	32	15+2
科目	1 年		2 年		3 年		4 年	
1 看護の基礎概念 I	5		5		4			
2 統計入門	3		3		3			
3 生物学	4		4		2			
4 物理学	2		6		5			
5 生理学	4		3		3			
6 選択科目	3		3		3			
ラ	5		4		4			
1 看護の基礎概念 II	5		5		4			
2 生化学	4		6		3			
3 教育、学習過程	3		3		3			
4 看護技術 I	6		4		5			
5 病態生理学	3		4		3			
合計(単位)	42		42		17			
科目	1 年		2 年		3 年		4 年	
1 看護の基礎概念 III	5		5		4			
2 看護調査概論	3		3		3			
3 看護技術 II	4		4		2			
4 母性看護	2		6		5			
5 選択科目	4		3		3			
ラ	3		3		3			
1 プライマリヘルスケア I	5		4					
2 小児看護	4		6					
3 精神衛生 I	3		3					
4 看護管理と指導	6		4					
5 救急看護	3		4					
合計(単位)	42		42		17			

表Ⅳ-5

SGP Curriculum

I 一般教育(4単位)	単位	3. 母子看護と家族計画(10単位)	単位
1. インドネシア語	[1]	助産学と妊産婦保健	[4]
2. 英語	[1]	分娩介助と看護	[4]
3. 宗教	[1]	家族計画	[2]
4. パンチャシラの5原則	[1]	4. 精神科看護(10単位)	
II 基礎看護(10単位)		精神保健	[2]
1. 看護概念	[3]	精神疾患看護	[5]
看護哲学		リハビリテーション	[2]
看護のコミュニケーション		行動科学	[1]
地域保健		5. 公衆衛生看護(10単位)	
2. 人間の概念	[2]	地域看護の導入	[2]
人間生態学		保健所における看護	[4]
健康と病気		家庭, 施設, 学校等の看護	[4]
健康にかかわる社会的要素		IV 教授法(20単位)	
3. 看護の方法と技術	[5]	1. 基礎教育	[2]
III 専門看護(10単位) 10単位選択		2. 教育計画	[4]
1. 内科, 外科看護(10単位)		3. 教育管理	[4]
内・外科看護Ⅰ	[4]	4. 教育評価	[4]
呼吸器, 循環器, 体液バランス		5. 特殊教育方法(看護)	[2]
電解質		6. 教育実習	[4]
内・外科看護Ⅱ	[4]		
脳神経系, 泌尿器系, 消化器系			
内・外科看護Ⅲ	[2]		
代謝, メタボリズム			
筋, 骨, 皮膚			
2. 小児看護(10単位)			
小児の看護	[2]		
小児保健	[4]		
病児と障害児	[4]		

表 N - 6

Kurikulum SGP Ujung Pandang
SGP ウジュンパンダンのカリキュラム

Program Pengajaran	Bidang Pengajaran	単位 SKS	Mata Ajaran 学 科 目 名	学 期 Seme- star	Guru 講 師
Umum 4 SKS 一般教育	Bahasa Indonesia インドネシア語	1		I	Drs. A. Mahmuddin (IKIP) 教育大学
	Bahasa Inggeris 英 語	1		I	Drs. Marguki (IKIP)
	Agama 宗 教	1	Islam, Protestan Katholik, Hindu	I	(Kanwil 州保健省事務所)
	Pancasila パンチャセラ	1	. Pancasila	I	Drs. M. Djufrio (Kanwil)
	(インドネシアの基本大原則)		. SKN 国家保健システム	I	Drs. Husen (SGP)
Dasar-Dasar Keperawatan 10 SKS 基 礎 看 護	Konsep Perawatan 看 護 概 念	1	Konsep Perawatan 看護概念	I	Ny. Annas (SGP)
		1	Komunikasi dalam Perawatan 看護のコミュニケーション	I	Drs. Husen (SGP)
		2	Konsep Sehat Sakit 健康と疾病の概念	I	dr. J.W. Luhulima (UNHAS) ハスヌデン大学
	Metodologi dan Teknik Perawatan 看護の方法技術	1	Proses Perawatan 看護過程	I	Ny. Martini (SGP)
		2	Tindakan Perawatan 看護技術	I II	Ny. Nurhani. Nurhaeni (SGP)
	Pengantar Penelitian dan Evaluasi Pera- watan 看護研究	1	dalam Perawatan 看護研究	II	Ny. Sabariah (SGP)
		1	Statistic 統系学	II	Ny. Annas (SGP)
Perawatan Khusus 専門看護 Kesehatan Anak 小児看護	Pertumbuhan, per- kembangan dan pen- ingkatan Kesehatan Anak 小児の発育発達・小児保健	1	Pertumbuhan Anak (小児の発達)	I	Ny. St. Mardiyah (SGP)
		1	Pediatri Sosial (Social Pediatric)	I	dr. Komang Kari (RS Umum) 国立一般病院
		1	Perkembangan Jiwa Anak (小児の精神発達)	I	Drs. Abd Kahar (UNHAS) 国立総合病院

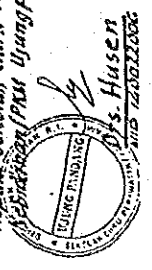
Program Pengu- jaran	Bidang Pengajaran	SKS	Mata Ajaran	Seme- star	Guru
Perawatan Khusus Perawatan Kesehatan Anak 10 SKS 専門看護 小児看護		1	Gigi Anak (小児栄養)	I	dr. Maritje (RS Um Um)
		1	U.K.S. (学校保健)	I	Ny. Ragina (eniss Pati I) 衛生部
	Perawatan Bayi & Anak 小児看護	1	Perawatan Bayi Resiko Tinggi (ハイリスク乳児の看護)	I	dr. Farham Haidas (RS Um Um)
		1	Perawatan Anack (小児看護)	II	Ny. Martini (SGP)
		1	Perawatan Bayi (乳児の看護)	I	Ny. Martini (SGP)
	Perawatan Anak sakit dan anak cocat 病児と障害児の看護	2	Pediatri Klinik (小児科学)	I	dr. S. Sunusi (RS Um Um)
	Perawatn Khusus Perawatan KIAKB 10 SKS 専門看護 母子保健・家族計画看護		1	Patologic Kebidanan (妊娠の病理)	I
1			Fisiologi Kebidanan (妊娠の生理)	I	dr. John Rambulangi (")
1			Kebidanan Sosial (Social obstetrics)	II	dr. John Rambulangi (")
2			Perawatan Kehamilan (妊婦看護)	I II	Zr. Saribulang (SGP)
2			Perawatan Persalinan & Nifas (分娩産褥看護)	I	Zr. Hermin (SPK Ujung Pandan) 国立ウジュンバンダンの 保健看護婦学校
1			Perawatan Ginekologi (産科看護)	I	dr. A. Arifuddin (RS Pelamonia)
			Perawatan Bayi (乳児看護)	I	Ny. Martini (SGP)
1			Keluarga Berencana (家族計画)	I(II)	dr. T. Marikar (RS Labugng. Baji) 州立病院
1			Program KIA (母子保健プログラム)	II	Ny. Ragina (Dinket Drnit)

Program Pengu- jaran	Bidang Pengajaran	SKS	Mata Ajaran	Seme- star	Guru
Keguruan 20 SKS 教職科目		2	Landasan Kependidikan 教育原理	I	Drs. Djamin Idar (IKIP)
		4	Perencanaan Penga- jaran 教育計画	I	Dr. Oemar I (IKIP)
		1	Penilaian Pengajaran 教育評価	I	Drs. Wahiduddin (IKIP)
		2	Bimbingan dan Penyuluhan ガイダンスとカウンセリング Pengelolaan Pengaa- jaran 教育管理	I	Drs. Amrulloh K (UNHAS)
		2	- Kurikulum カリキュラム	II	Ny. St. Mardujah (SGP)
		2	- Administrasi Pendidikan 教育管理	II	H.M. Amin Mena (SPK Labuang Baji)
			- Leadership & Manag- ement	II	Drs. Husen (SGP)
		1	Psilogi Pendidikan 教育心理	II	Dr. Tana Pangginai (IKIP)
		2	Metode Khusus 特殊教育方法	II	Ny. A Annas (SGP)
		4	Praktek Keguruan 教育実習		
		44 SKS			(19 回) 1週に1×1セメスター =1単位

IV - 2 PROGRAM PENDIDIKAN SEKOLAH GURU PERAWATAN/KEBIDANAN/PKM (1984/1985) UJUNG PANDANG TAHUN 1984/1985

NO.	WAKTU	SEMESTER I												SEMESTER II				KETERANGAN			
		Ok.	Nop.	Des.	Jan.	Peb.	Mar.	Apr.	Mei	Jun.	Juli	Agust.	Sept.								
1	SOSIALISASI (11.11.84 - 11.11.84)	1																			
2	PENGETAHUAN TEORI (11.11.84 - 11.11.84)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	Program (teori) Peng. Asesmen, Peng. Asesmen, Peng. Asesmen (11.11.84)
3	PRAKTERUMAH SAKIT (11.11.84 - 11.11.84)																				
4	PRAKTER PUSKEMAS (11.11.84 - 11.11.84)																				
5	PRAKTER KB/PEN-AMAK (11.11.84 - 11.11.84)																				
6	PRAKTER KEPENDIDIKAN (11.11.84 - 11.11.84)																				Mengusur Sibel, Simulasi, Praktek (11.11.84)
7	FIELDTRIP (11.11.84 - 11.11.84)																				
8	EVALUASI (11.11.84 - 11.11.84)																				Evaluasi, Simulasi, Praktek (11.11.84)
9	LIBUR (11.11.84 - 11.11.84)																				

Ujungpandang, 17 Oktober 1984
Kepala Sekolah Guru Perawatan/
Kebidanan/PKM Ujungpandang.



2. 教育内容，教授法改善の評価

教材は，その国の看護教育が目指すものを具体化するのに極めて有効な手段となる。したがって当初は，インドネシアの実態に添う自作教材の開発が望まれ，1980年のJoint Committee Meetingで，DCNEに看護教科書作成開発委員会および，看護教材開発委員会の設置についての取り決めが行なわれている。しかし，それはイ側の看護教育に携わる人材不足により実現していない。このような状況から，プロジェクトによる教材開発は，日本語や英語のテキストを翻訳，印刷，製本する作業が中心となった。またビデオテープも1978年から1980年は同じ状況にあったが，これらは教科書が皆無に近かったインドネシアにおいては妥当な方法であったと思われる。その実績から専門家の努力が伺える。このような中で，プロジェクト4年目に「看護学総論」の自作教科書が作られたことは大きな前進と評価されよう。

これらの翻訳，作成された教材の選定は1981年以来中堅技術者養成対策費によりDCNEおよびバンドンで開催された看護教育教材開発上級コースで検討されたものである。とくに有効活用のでまれた「新生児・幼児の養育と看護」についての増刷がなされており，これらの決定は前述のコースにより行なわれてきた。また，アカデミー校，SGP，SPKの上級教員が総日教にして25日間，延人数66名が一堂に会し，教育内容の検討を行ったことは，看護教育の方向づけにも重要な役割を果たしてきたことを示している。

(1) テキストとその活用

プロジェクト期間中，DCNEで作成されたテキストは22種，37250冊にのぼり，その内訳は，日本語からイ語訳3種，英語からイ語訳12種，その他イ語による印刷物7種である。これらは新カリキュラムに沿った母性看護，小児看護，内・外科看護，地域保健等を中心としたものから，教育法，教育プログラムの評価等，教授法に係る内容のものにも及んでいる。このことは，現段階での看護教員養成に基本的に必要な一連の参考図書が開発されてきたということができ，今後の看護教育内容を更に明確化していくのに貢献するものと思われる。

これらの図書は，DCNEの管理のもとに，全SGP4校に各100～200冊，SPK194校に平均2～3冊ずつ供与されている。主としてSGP教員，学生，現任教育参加者およびSPK教員，学生に利用され，具体的な活用法は①授業展開上の教師のガイドブックとして，②学生のグループワークのテキストとして，③レポート作成時の参考図書として等である。また，ビデオテープを含めた供与と機材の活用による効果については，現場の教員・管理者の意見は，①インドネシア語の新図書導入は教員・学生双方の学習意欲をかり立てた，②教育内容が明確になったことが教員としての自信を高めた，③教材の必要性を再認識した等であった。これらの意見は教材開発への関心の高まりと見ることができよう。

一方で、翻訳された図書を監修するシステムがないため、問題点もいくつか指摘されたが、見学したSGP・SPKではいずれも図書の管理はゆきとどき、利用率も高いと喜ばれていた。

(2) 視聴覚教材とその活用

1979年から1980年に供与ビデオ63本がインドネシア語に翻訳、吹き替えが行なわれた。これらは必ずしもインドネシアの実態に添う内容とはいえないが、看護ケアのプロセスを視覚的、系統的に学ぶ方法として、また、教員にとっては教授内容の評価をする手本として大きな効果をあげているようであった。また、独自のビデオ教材開発のサンプルとしても評価できる。主な利用者は現任教員参加者であり、1983年のプロジェクト延長後、SGP3校に供与されたビデオテレビが活用されていた。

一方、AVA研修員受入れ、短期専門家派遣などにより、DCNEで「心電図のとり方」、「静脈注射の方法」など基本的看護技術から、「熱傷病棟の看護」など、自作ビデオが12本、スライド・ドキュメントフィルム10本が作成された。この中で教材となり得るものはダビングされ、各SGPに配布されているということであったが、視聴した何本かのフィルムから判断して、必ずしも学生の教材にふさわしいものばかりではないように思われた。DCNEのスタジオに所属する4人のAVA技術者の技術レベルは十分といえようが、シナリオ作成に問題があるようである。看護スタッフのこの分野への係わり、研究が今後の課題であろう。

(3) 今後の教材開発に望まれること

現在インドネシア保健省は、1年間の看護婦養成数6,000人を目標として、SGP,SPKいずれも1学年に複数のクラスを増設している。たとえばSGPウジュンパンダン、バンドンとも1クラス40名を80名に、SPKは1学年40名から120名と大巾な学生増がふつうのこととして行なわれており、それらに効率的に対応するために一斉教授、グループ学習がとり入れられて運営されている。このような実状に加え、看護教育制度は高レベルを目指し動き出そうとしている。教育レベルの一律化、教育目標を効果的に達成するための教育内容・方法が、長期的展望に立つて計画され、管理運営されていくことが望まれる。

短期目標の一つとしては、1986年度DCNE予算に計上されたAV製作費13,185,000ルピアの効果的活用であろう。1本15～20分位のフィルムを年間2～3本製作することも、一つの案として可能な方法であろう。少数でも教育効果の高いビデオテープの作成がのぞまれる。

また、系統的な教授の方法とともに、問題解決のできる学生を養成するためには、学生個々の学習活動を促す方策が一層重要であると思われる。そのため、自作教材が全ての学生に行きわたることがのぞましい。専門分野のテキスト開発が、「看護学総論」作成時の経験を基に、今後進められることが期待される。

表Ⅳ-7 教材開発

1. 翻訳, 印刷, 製本した図書

ブック ナンバー	著 名	数	
1	新生児と幼児の養育と看護	2000	英→イ語
2	6才～12才までの学童	2700	"
3	熱帯地域における小児の看護	2000	"
4	ストレス	2000	"
5	地域保健看護婦のための訓練	1000	"
6	家族計画の概要	2000	"
7	外科的諸問題をもった患者の看護	2000	日→イ語
8	母性, 小児看護学カリキュラム・ガイダンス	1000	"
9	S P Kモジュールカリキュラム	1000	イ語
10	看護教師のためのガイダンス	3000	英→イ語
11	内科的諸問題をもった患者の看護	3000	日→イ語
12	看護教育の展望	3000	英→イ語
13	看護教員養成校 新カリキュラム	1500	イ語
14	看護婦と患者の相互作用	1500	英→イ語
15	看護総論(基礎)ガイダンス	1500	イ語
16	S P Kカリキュラム	1000	イ語
17	National Health System Indonesia	600	イ語
18	Teaching for better Learning	1500	英→イ語
19	看護ゼミナール資料	650	イ語
20	保健要員のための教育プログラム評価	1000	英→イ語
21	Family Health Nursing	1000	英→イ語
22	Principle of development Health Long term planning	1000	イ語
1	新生児と幼児の養育と看護(増刷)	500	英→イ語
18	Teaching for better Learning(増刷)	800	"

2. VTRテープ, 日本語版をインドネシア語に翻訳: 63本

3. DCNEで製作したVTRテープ

- ① 心電図のとり方
- ② 静脈注射の方法

- ③ 臍帯切断の方法
- ④ 検温の仕方
- ⑤ I.C.Uの看護
- ⑥ 火傷病棟における看護
- ⑦ 経管栄養の方法
- ⑧ 家庭訪問（乳児看護）
- ⑨ 地域保健看護（Nursing Process）
- ⑩ 胃洗浄（Nursing Process）
- ⑪ ベッドメイキング
- ⑫ 高血圧患者の看護

3 中堅技術者養成対策事業とその効果

1975年の看護制度の改革は様々なレベルの教員を生むと同時に、保健看護婦の多量養成によるSPK教員の質的・量的問題をもたらしてきた。

中堅技術者養成対策費による協力援助は主に教員養成との関連で看護教育内容の充実強化を図ることを目的としたもので、以下の3項目が含まれていた。

- <1> カリキュラム開発及び教材開発のための上級看護コース開催
- <2> 教材開発
- <3> 現任教育訓練

これら一連の事業に係る経費の一部は、インドネシア政府のカウンタープロジェクトで負担してきたもので、インドネシア側の負担率は漸次高くなってきている。

(1) 現任教育訓練

1) 専門看護講習会

SGP、SPKの教員を対象とした専門看護分野について、毎回6週間にわたる講習会がSGP4校を順次会場にして開催された。それらの講習会名、開催数、及び参加者数は、小児看護については4回、81名参加、母性看護については3回で60名参加、内外科看護については7回で140名であった。

講習会に参加した教員の感想をまとめてみると、①教育内容を明確にすることができた、②専門分野の教材、資料作成が容易になった、③専門的知識、技術の習得により、教員としての自信がついた、等であり、また、再度参加したい希望も多く聞かれた。特に授業展開のための資料の作成は教育の改善に役立っている。これらのことから、プロジェクト開始の早期においてSGPの新カリキュラムにみられる専門分野の明確化と強化のためのこれら講習会の開催の意義は大きいといえる。

2) 視聴覚教材開発講習会

これは、2週間の講習会がDCNEにおいて、ほぼ毎年計5回開催されており、参加者はSGP、SPK、アカデミー校教員等で参加者数は108名である。この講習会はAV教材作製法、AV機器操作法、教育機器活用法などの内容となっており、主として供与器材の使用法、有効活用を促し、教育に反映させるためのものであった。第2回講習会(1981年)には、日本側の短期専門家による技術援助が行なわれている。

OHPやスライドプロジェクターは訪問したSGP、SPKとも頻回に使用するということがあった。学生にはテキストはない、ということから、AV教材の活用がよりのぞましいであろうし、そのために、今後ソフトウェアの改善、開発が一層期待される。

3) 図書館司書講習会

これは、1984年に1回、参加者20名でDCNEにおいて4週間にわたり実施された。今回視察した学校ではいずれにも図書室に司書がおり、一部SPKでは蔵書数が約300冊と全学生数にも満たない実情はみられたが、図書分類、貸し出し等が行なわれていた。これにより、図書の利用頻度を高めただけでなく、蔵書の紛失を防止しているということで、管理運営上の効果もあげていた。2年の延長期間で図書管理は大きく改善されたといえよう。

中堅技術者養成対策事業は、初期には専門看護分野についての教員の教育強化、SGPカリキュラムの改善、DI・DIIカリキュラムの改善に重点をおき、4年間に約260名の教員がDCNEやSGP校等で受講している。1983年のプロジェクト延長後は、DCNEの機能強化をはかるため、視聴覚教材講習会、図書館司書講習会などが開催された。これらにより、SGP、SPK教員の能力開発、教育内容の充実がもたらされたものと思われる。

以上のように、DCNEが中心となって看護教育全般にわたる改革に関与することができた。また、インドネシア側では、独自に看護研究等の専門看護講習会、管理講習会の開催など7回にわたって行ってきており、今後プロジェクト終了後の講習会の運営も大きな期待がかけられている。

この分野における今後の課題として、現任教育参加者のフォロー等を行い、将来の講習会の拡大領域、内容改善を図るなど、予算の確保と継続的な努力がのぞまれる。

表Ⅳ-8

中堅技術者養成対策費による協力（1979年5月28日に調印）

中堅技術者養成対策費は次のように示達され実施された。

1. 示達金額

1979～1980年（S54年度）	15,602,000円
1980～1981年（S55年度）	11,528,000円
1981～1982年（S56年度）	11,942,000円
1982～1983年（S57年度）	8,050,000円
1983～1984年（S58年度）	7,465,000円
1984～1985年（S59年度）	7,620,000円
1985～（S60年度）	6,800,000円（要請中）

2. 実施項目

1) 研修会および講習会の開催

開催年		講習会名	期間	開催地
1979	○	小児看護	6週間	ジャカルタ
	○	内・外科看護	6週間	〃
1980	○	看護Workshop	4日	〃
	○	AKTAⅢ 研究	4日	チロト
		小児看護	6週間	ジャカルタ
		小児看護	〃	スラバヤ
	○	母性看護	〃	ジャカルタ
	○	内・外科看護	〃	バンドン
	○	内・外科看護	〃	ウジュンパンダン
	○	DIPLOMAⅠ,Ⅱ	1週間	バンドン
	DIPLOMAⅢ	〃	スラバヤ	
1981	○	第1回視聴覚教材	2週間	DCNE
	○	第2回 〃	〃	〃
		内・外科看護	6週間	スラバヤ
		小児看護	〃	ウジュンパンダン
		母性看護	〃	ジャカルタ
	○	教材開発	2週間	DCNE
	看護教員養成校 カリキュラム改善	〃	ウジュンパンダン	
1982	○	第3回視聴覚教材	〃	DCNE
	○	内・外科看護	6週間	ジャカルタ

開催年		講習会名	期間	開催地
1982		内・外科看護	6週間	スラバヤ
		内・外科看護	"	バンドン
	○	教材開発(テキストブック)	1週間	バンドン
	○	母性看護	6週間	ジャカルタ
1983	○	カリキュラムの改善	10日間	DCNE
	○	第4回視聴覚教材	2週間	DCNE
1984	○	第5回 "	"	DCNE
	○	臨床実習指導	4週間	ジャカルタ
	○	SPK, SGP 司書	"	DCNE
	○	SPKカリキュラム再構築	2週間	DCNE
1985	○	視聴覚教材	"	予定
	○	上級看護研修会		予定

○印は JICA の中堅技術者養成対策費で費用の一部を負担したものである。

4. 専門家派遣の効果

プロジェクトの終了までに JICA から派遣されることになる専門家は長期 7 名、短期 8 名で、合計 15 名となる。

専門家の役割は、技術移転の実行者であり、計画者でありその助言者でもあり、また、日本・インドネシアの間に立ってプロジェクトの調整者として促進者として開発者として、また必要に応じて外交的役割の一助をも荷負うということも多く、期待されることは多く、またその責任も重い。

(1) チームリーダーについて

54 年から 1 年の派遣期間において、最初のチームリーダーにより看護教育プロジェクトの活動目標の概要が決められた。55 年以後は二番目に派遣されたチームリーダーにより業務が継続推進されてきた。

(2) 専門家について

専門家は当初の 5 年間は主としてジャカルタに本拠をおいて、そこから、バンドン、スラバヤ、ウジュンパンダン等の SGP に出向いて指導助言をしてきている。1981 年 4 月に DCNE およびウジュンパンダン SGP が完成、開所となったことを機に、チームリーダーおよび専門家は DCNE 内にオフィスを持ち、より具体的な活動の目標が設定できるようになり、また、DCNE の看護教育開発センターという機能を十分に活かせる計画が立てられるようになった。視聴覚教材等の作成、供与教育機材の活用など、DCNE を中心とした

プログラムが展開可能となった。一方、ウジュンパンダンSGPについても同様に、同校は看護教員養成の他に、地域の保健要員の再教育講習会の会場として、供与機材、設備の使用も含めて有効に機能するようになってきている。専門家はこれら無償資金協力による建物が、技術協力の成果をあげるためにより効果的に使用されるように努力している。

1983年のプロジェクトの2年延長によって、新たに2名の長期専門家が派遣され、1名はDCNEに、他の1名はウジュンパンダンSGP配置となり、ウジュンパンダンSGPは専門家を有する新カリキュラム実践のモデル校として期待されるようになり、専門家の役割分担が明確になった。

ジャカルタから1400kmも海を隔てた赤道直下の町のウジュンパンダンSGPでは、カリキュラムの中で従来その内容が少なかったということでCommunity Orientedを考慮した地域看護実習が計画実施された。この実習では、地域でのKadar (Village Health Volunteer)の養成を援助することができ、SGPの教員、学生、保健所の医師・スタッフ、地域住民の四者が一体となって話し合うこととすすめられた。その結果、教員も学生も地域における看護活動の一連の過程に参加し、PHCの達成のためにインドネシアで強調されている住民の自助努力の重要性やその援助方法、チームワーク等について実施して学ぶことができ、教育方法の改善として成功したといえよう。専門家が帰任後も今後の内容の充実が期待される。

(3) 専門家の主な業務

- 1) SGPおよびSPKカリキュラム改善にあたっての助言
- 2) SGPの教員および講習会参加者に対する指導・助言
- 3) SGPの学生の教育、臨床実習時の指導
- 4) DCNEならびにSGPにおける供与機材の使用法、実習用教材利用促進についての助言
- 5) 教材作成時の文献の選択についての助言
- 6) VTR作成時の助言
- 7) 実習用教材図書等の管理に対する援助
- 8) 供与機材要請にあたっての援助
- 9) 現地調達教材購入についての協力
- 10) 研修員候補者への助言
- 11) 各種講習会への参加、助言
- 12) 見学者に対してのプロジェクトの説明

5. 帰国研修員の定着状況と活動

研修員は1985年8月現在までに総数20名が日本で研修をうけて帰国している。

なお1985年度の長期研修員1名は1986年9月10日迄の予定である。

研修員の年度別受入れ数は次の表Ⅳ-9のとおりである。

受入年度 専門領域	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	計
小児看護	1	1			2		(1)	5
内科・外科看護		1	1	2				4
視聴覚教育			1	1				2
看護管理		2		1	1			4
学校管理		1		2		2	1	6
計	1	5	2	6	3	2	2	21

()内は未終了者

研修員の所属機関別受入れ数は次の表Ⅳ-10のとおりである。

受入年度 所 属	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	計
CET・DCNE		※ 1	※ 1	※ 4	1		1	8
SGP							(1)	1
ウジュンバンタン校	1	1	1			1		5
スラバヤ校		※ 2 (1)		1	1			4
バンドン校		1			1			2
ジャカルタ校				1		1		2
計	1	5	2	6	3	2	2	21

※ 帰国後移動したもの

()内は未終了者

帰国研修員で移動のあった者はCET・DCNE所属者に多い、これは1984年CETの内部機構の変革に伴う人事異動であるとのことであるが、DCNE所属であった2名のAudio Visual技術専門家がともに移動したことは残念である。しかしDCNEにおいて既にAVに関する技術者が育てられており現在4名の技術者によってAVスタジオの管理・運営も行われているため教育活動には支障がないものと考えられる。

研修員の専門領域は主に小児看護・内科外科看護・看護教育管理の分野に分かれており他の領域に及んでいないが、この理由は、現在のSGP4校では看護教員養成の専門コースが「母子看護」と「内科・外科看護」のみであることによると考えられる。なお特記すべきことは、帰国研修員が次のステップへ進むための学習に自発的にとりこんでおり、その例としてウジュンバンタンSGPのMrs. Mardea、Mrs. Annasはすでにインドネシア国内の大学で2年の課程を終了して1985年7月、復職しており、両名とも学校長を援けてよい教育活動

をしていた。またスラバヤ校の Miss Radia は本年、インドネシアの大学に入学し学習継続中である。

ウジュンパンダン校では、AV 技術者や図書管理にあたる司書がジャカルタでの短期の研修 (DCNE で行った) の結果、技術を十分に習得し創意工夫を加えて成果をあげている場面がみられた。

6. 供与機材の活用・管理状況

供与機材は主に、看護教育用教材 (図書、視聴覚教育機器と教材、看護実習用教材) と車輛その他 (事務用機材) に大別できる。

供与機材の配布先は、1982 年までは DCNE とウジュンパンダン教員養成校の 2 ヶ所であったが 1983 年度からはスラバヤ、バンドン、ジャカルタの 3 つの教員養成校にも配布されるようになった。

教材の中でも最も必要とされる図書、テキストは派遣専門家の協力により、22 種の本が英語から、また日本語からインドネシア語に翻訳され印刷、製本されている。印刷部数は本の活用度により多少異なるが、3000 部から 1000 部の巾がある。学生数の増加と活用状況からみて、最近増刷した本もある (表 V-7)。

学生数に比し、図書は少なく、殊にインドネシア語の本は教員養成校 (SGP) でもまた SPK でも不足しており、英語の読めない SPK ではインドネシア語のテキストは数名のグループに 1 冊しか与えられず、使用頻度が高いため汚れて古くなってきている。

(1) 視聴覚機器と教材

DCNE とウジュンパンダン校はスタジオも調整室もともによく整備されて清潔である。カメラ、編集器、照明器具も、いつでも使用できる状態であった。

SGP ジャカルタ校は地理的に DCNE と接しており、VTR 教材を用いる教育活動は DCNE を活用しており、学校内では主に OHP、スライドが使われていた。1983 年以降に供与されるようになった SGP 3 校のうち、ジャカルタ校以外にバンドン校も視察したが、スタジオをもたないため、バンドン校でも VTR の教材活用は活発とはいえず、ジャカルタ校と同じ程度であった。

VTR 教材の日本語版をインドネシア語に翻訳したものが 63 本あり、DCNE で製作したオリジナルテープが 12 本ある。教材以外にも、国際的な看護交流の状況などをテーマにし製作して活用している。

看護の VTR 教材を作成して行くためにはまず看護教員が、しっかりしたシナリオを作成し A-V 技術者の協力を得ながら編集のチェックもできる能力を身につける必要がある。その意味で DCNE には、インドネシアの実状にあった A-V 教材の開発に専念できる看護

教育の専門家を常時、配置することが望ましいと考える。

活用度の高いVTR教材としてはどの学校の教員も看護「基礎技術」に関するものをあげており、今後、欲しい教材としては「地域看護」と「看護過程」に関するものをあげている。欲しいと思っているものが、A-V教材として適切かどうかまでは考えていないようであり、教育方法の検討と効果的な教材に関する基礎知識や考え方に問題があると思われる。

(2) 看護実習用教材

主なものは校内実習で用いる、モデル人形、Bed、インキュベーター、消毒器、計測や測定に用いる器具等と解剖学の学習用の人体模型や臓器模型等である。これらの教材もDCNEとSGPウジュンパンダン校では、よく整備されて大切に保存されている。種類としては学習や実習に必要な範囲のものは揃っているが、学生数との対比でみると同じ種類のものの数が少ないので同時に授業が行われたときは、一部の学生しか使えず不自由を来すことが問題である。

また、SGPウジュンパンダン校では、初期に供与した看護用具の自然磨耗がはげしい。特に、ゴム製品はいたみがひどい状況であった。年間をとおして高温多湿の土地であることから、このような製品の管理には限度があると考えられる。

今後、これらの自然消耗品に対しては自国で製作可能な範囲で補修、整備して行くと、各学校長は知っているが、果してきめ細かい補修と維持ができるかどうか、疑問となるところである。

(3) 車 輜

どの教員養成校でも、またSPKでも、実習先への学生の送り迎えや機材等の運搬の目的で十分に活用されており、整備、管理はほぼ良好である。故障については現地で修理可能と見うけられた。

7. インドネシア側のプロジェクト評価

— 概要訳及びインドネシア語によるもの —

OTA-62プロジェクト援助による看護教育発展の評価（概要訳）

I 経 緯

保健要員の教育とくに看護教育のレベルを上げるための計画としてJICAの援助による建物が建設された。

看護教育プロジェクトとしてJICAの援助は1978年に開始し、1983年に終了することに協議し、議事録が合意された。しかし上述の看護教育の重要性を考慮してJICAの援助は1985年11月まで延長された。

JICAの援助は、看護教育の発展を目的とし、これによってプロジェクトの目標、到達目標、問題、結論などの提案事項が提出された。

II 目的：プログラムによる活動は下記のとおりである。

A 教育技術の発展

1. 看護教育カリキュラムの開発
2. 看護教育方法の改善
3. その他看護教育に関する強化活動

B 専門家による援助

C 日本における看護関係者の研修

D 教育教材の提供

E 中堅技術者養成の予算援助

III 実 績

A 1. ジャカルタDCNEとウジュンパンダンSGPの建設

2. AKTA IIIカリキュラムの作成
3. DI, II, IIIカリキュラムの作成
4. SPK, SGPカリキュラムの作成
5. 研修事業活動

B 1. 22グループ参加者合計462人の看護教員の養成

2. 専門家、1979年以来長期7名 短期2名

C 研修員総計 20名

D 1. 22種類 31,950冊にのぼるテキストの作成

2. 63本のビデオテープの翻訳
3. 10本のビデオテープの作成
4. 4つのSGPとDCNEへのAVA機材の設置

E 1. 供与された機材総額

1979年から1985年 ￥149,586,000

2. 中堅技術者養成のための総額

￥62,207,000

3. ジャカルタDCNE, ウジュンパンダンSGP建設費

￥1,500,000,000

IV 問題点

プロジェクト実施上, いろいろな問題があったが特に:

1. 人材の不足とDCNEの位置づけが不明確なため, DCNEの設備, 体制が不十分である。
2. 訓練費, 設備費等の援助が限定されている。

V 今後の方針

1. DCNEに必要とされる人材を補充し, Pusdiknakesの一種のUPTとなることが望まれる。
2. 看護教育の開発ユニットとしてDCNEの機能を強化する。
3. 保健分野の人材教育向上のため, JICAと保健省との協力の発展が必要である。
4. DCNEの職員の教育と訓練のため, 巾広いAVAのプログラミングシナリオ作成の出来る日本の専門家が必要である。
上に述べた職員は, 3~6ヶ月で技術修得出来る。
5. DCNEスタジオスタッフの能力向上のためPusdiknakesと情報省の協力が必要である。
6. (ジョクジャカルタにある)情報省の機関でDCNEのスタッフの写真, AVA製作のトレーニングの実施が望まれる。

VI まとめと提案

1. JICAの援助, 特に電動機器の利用面においては, 看護教員の能力を高めるために非常に役立った。
2. DCNEとウジュンパンダンSGPでの日本人専門家との協力は, 看護教員達の援助, 特に時間, ハードワーク面, 規律面で成果があった。
3. 日本人専門家がインドネシア語を充分話せたらもっと成果が上ったであろう。
4. 日本から援助された機材は故障した場合, インドネシア国内で部品が得られず修理が困難であった。
5. 機材援助に当っては, 税金の問題, パーツ補充の問題から国内での産品が望ましい。
6. 教材作成用の電気製品の供与に当っては, 一種のon the job trainingによりスタッフの能力の向上が望ましい。

7. JICAの援助は看護教育の発展、特に看護教員の質向上に貢献した。
8. JICAとの協力は看護教員の教育のみでなく、SPKやAKPERでの教育者に拡大継続される必要がある。

LAPOBAN PENGEMBANGAN PENDIDIKAN PERAWATAN
MELALUI BANTUAN PROYEK OEA - 62 (JICA)

I. PENDAHULUAN

Dalam rangka upaya peningkatan pendidikan tenaga kesehatan khususnya pendidikan Perawatan, dilaksanakan upaya pembangunan melalui bantuan JICA (JEPANG).

Bantuan JICA pada Proyek Pendidikan Tenaga Perawatan di mulai pada tahun 1978 dan sesuai dengan naskah perjanjian, berakhir pada tahun 1983.

Mengingat pentingnya Upaya Pendidikan tersebut, maka bantuan JICA diperpanjang dan akan berakhir pada bulan November 1985.

Bantuan JICA lebih di arahkan kepada upaya Pengembangan Pendidikan Guru Perawatan. Berikut ini dikemukakan tentang tujuan proyek, hasil yang akan dicapai, masalah dan kesimpulan serta saran-saran.

II. TUJUAN

Kegiatan program meliputi :

A. Pengembangan teknis pendidikan :

1. Pengembangan kurikulum pendidikan perawatan.
2. Pengembangan metodologi, perawatan.
3. Pengembangan-pengembangan lain yang berkaitan dengan pendidikan perawatan.

B. Bantuan Tenaga Expert.

C. Fellowship tenaga perawatan ke Jepang.

D. Penyediaan peralatan dan buku-buku.

E. Bantuan biaya untuk kelompok kerja.

III. HASIL-HASIL YANG TELAH DICAPAI

- A. 1. Pembangunan gedung DCNE Jakarta dan SGP Ujung Pandang.
2. Pembuatan kurikulum ANEA III.
3. Pembuatan kurikulum Diploma I, II, dan III.
4. Pembuatan kurikulum SPK dan SGP.
5. Kegiatan kelompok-kelompok kerja.
- B. 1. Penataran Guru Perawatan meliputi 22 angkatan dengan peserta sebanyak 462 orang.
2. Bantuan Tenaga expert sejak tahun 1979 sebanyak 7 orang (long term) dan 2 orang (short term).
- C. Fellowship diikuti oleh 20 orang.
- D. 1. Penyediaan buku-buku sebanyak 20 jenis buku (51.950 buku)
2. Penerjemahan 65 video tape.
3. Produksi 10 video tape.
4. Peralatan pendidikan untuk 4 SGP dan DCNE meliputi alat peraga, AVA.
- E. 1. Jumlah biaya peralatan :
1979 s/d 1985 = ¥ 149,586,000
2. Biaya untuk kegiatan kelompok dan penataran sebanyak -
¥ 62,207,000
3. Biaya pembangunan gedung DCNE Jakarta dan SGP Ujung Pandang
= ¥ 1,500,000,000

IV. MASALAH.

Dalam pelaksanaan proyek, ditemukan berbagai masalah antara-lain :

1. Sarana dan fasilitas DCNE masih belum dimanfaatkan secara penuh oleh karena kurangnya tenaga dan belum jelasnya pelem-bagaannya.
2. Dana pemeliharaan, sarana dan fasilitas yang berasal dari bantuan masih terbatas.

V. LANGKAH - LANGKAH LEBIH LANJUT.

1. Mengusulkan pelebagaan DCNE menjadi suatu UPT dari Pusdiknakes serta melengkapi tenaga, sesuai dengan kebutuhan.
2. Meningkatkan fungsi DCNE sebagai unit pengembangan pendidikan Perawatan.
3. Mengusulkan pengembangan kerjasama JICA dan Dep. Kes. dalam upaya peningkatan pendidikan tenaga kesehatan.
4. Mengusulkan adanya tenaga ahli dari Jepang yang dapat melatih / mendidik tenaga yang ada di DCNE dalam bidang programming - Ava technician, penulisan skenario. Tenaga tersebut dapat 3 - 6 bulan untuk alih teknologi.
5. Mengusulkan kerja sama Pusat Diknakes dengan Departemen Penerangan untuk pengembangan kemampuan tenaga studio / studio - Workskop DCNE.
6. Mengusulkan adanya tugas belajar tenaga DCNE pada lembaga pendidikan yang dimiliki oleh Departemen Penerangan (di Yogya - karta) untuk penguasaan fotografi dan produksi ava.

VI. KESIMPULAN DAN SARAN.

1. Bantuan JICA mempunyai dampak yang positif dan besar terutama dalam peningkatan kemampuan guru perawatan dalam menghasilkan dan menggunakan beberapa alat peraga elektronika.
2. Dengan bekerja sama dengan tenaga ahli yang diperbantukan pada DCNE dan SGP Ujung Pandang menambah cakrawala staf guru perawatan terutama dalam disiplin menghargai waktu, kerja keras.
3. Tenaga ahli dari JICA akan jauh lebih bermanfaat bila mereka mempunyai kemampuan berbahasa Indonesia.
4. Alat bantu pendidikan (Teaching - leaning materials) yang di datangkan dari Jepang bila mengalami kerusakan, sukar diperbaiki karena suku cadang kadang - kadang tidak terdapat di Indonesia.

5. Kiranya dalam memberi bantuan sebaiknya alat alat yang diberikan adalah yang diproduksi dalam negeri sehingga tidak ada kesulitan soal pajak bea masuk serta suku cadang.
6. Dalam memberikan bantuan terutama alat elektronika yang mempunyai kedudukan strategis dalam memproduksi alat alat bantu proses belajar mengajar sebaiknya diikuti dengan peningkatan kemampuan staf (harus ada semacam on the job training)
7. Bantuan JICA dapat meningkatkan pengembangan pendidikan perawatan khususnya pengembangan kemampuan guru perawatan.
8. Kiranya kerja sama dengan JICA perlu dilanjutkan dan diperluas serta dikembangkan tidak hanya untuk pendidikan guru perawatan, akan tetapi pendidikan SPK dan AKPER.

V 総 合 評 価

1 インドネシアの看護教育

(1) インドネシア看護教育の現状と将来

看護婦養成は現状ではSPK（中卒3年）中心の養成であるが、PELITA IVによる量的な増員計画をはかるなかで、将来は高卒を基礎学歴とした現在のAKPER（アカデミー校）からDⅢコースとし、技術を重視した課程を設ける考えで、1986年に開校を予定している。また、1985年からインドネシア大学に看護学部S Iが開設される。現在の学校数は、SPK194校、AKPER26校、大学1校、SGP4校となっている。

これらの状況から、SGPの存在は現状のまましばらく続くと思われる。しかし、PELITA IVの終期、またはPELITA Vでは、看護教員養成課程は、DⅢ+AKTAⅢに移るのではないかと思われる。その段階になる時点でインドネシア側から新しい看護教育プロジェクトの要請が予想される。

(2) 看護教員養成の将来

教員養成に予想されることとして、以下のことがあげられる。

- 1) SPKの教員は、SGPの卒業生とせずAKPERの卒業生とする。
- 2) AKPERの教員は、AKPERまたはDⅢ+AKTAⅢの卒業生とする。
- 3) SGPの教員は、AKPERまたはDⅢ+AKTAⅢの卒業生以上とする。

以上のことからAKPERまたはDⅢの学生数が増えることが必然的となり、すなわちSPKはAKPERまたはDⅢに移行することになり、また、SGPはDⅢ+AKTAⅢ以上の課程に変わっていく可能性も考えられる。

(3) 将来の看護教育の予想

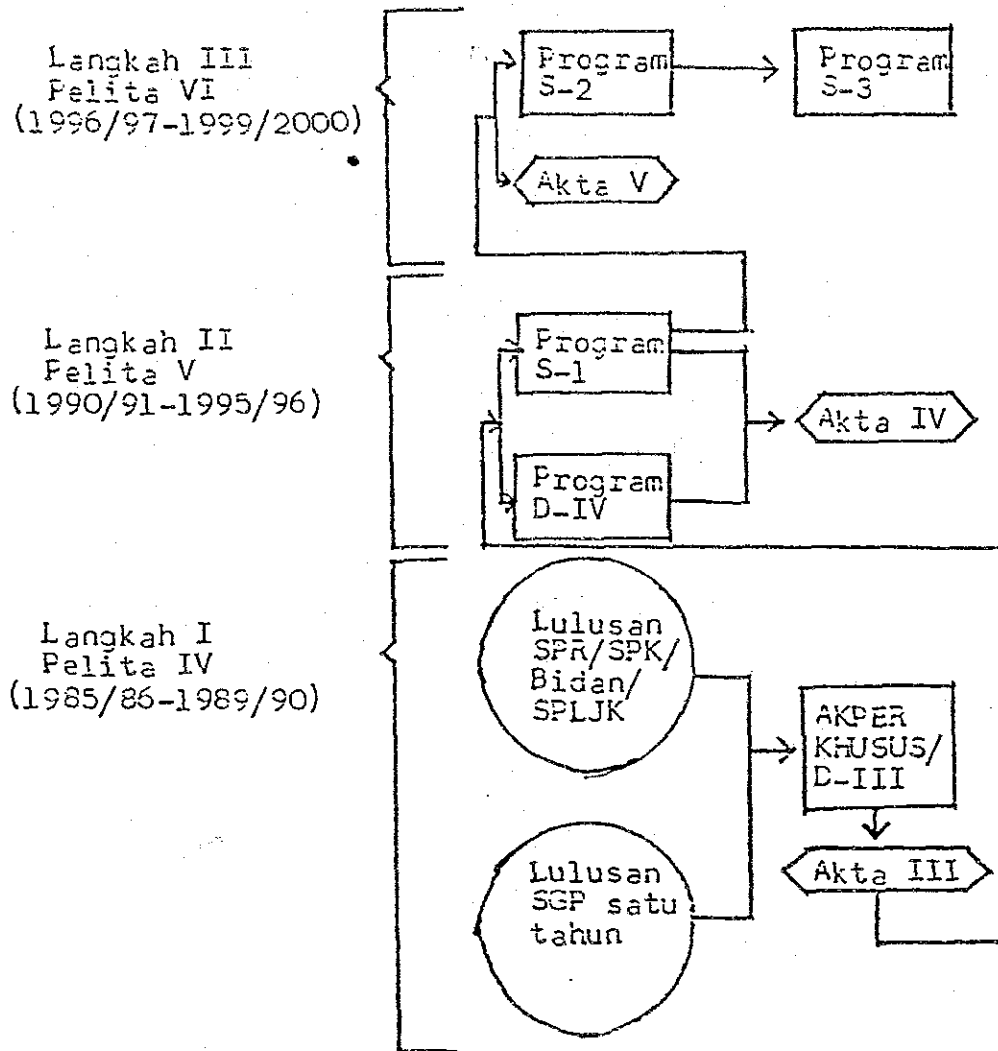
- 1) SPK、SGPはDⅢとなり、SGPではさらにAKTAⅢが追加され、看護婦養成は全て高卒後に行う。
- 2) PELITA V（1990/1991～1995/1996）では、S I、DⅣ+AKTAⅣ（DⅣの教員コース）の課程が設けられたり増えたりする。
- 3) PELITA V（1996/1997～1999/2000）では、SⅡ（マスターコース）、SⅢ（ドクターコース）、AKTA Vが設けられる。
- 4) 看護婦数は、PELITAⅢ 44,651人から、PELITAⅣ（1985/1986～1989/1990）での76,238人を目ざしており現在、毎年6,000人の養成が必要となるため、看護学校数、看護学生数が急速に増加している。

(4) 看護教員養成課程の予想

- 1) SGPの2年課程 → SPK教員となる。

⊗ V - 1

Ferspektif model jalur pengembangan tenaga kependidikan dalam bidang keperawatan sampai tahun 2000.-



- 2) AKPER + AKTA III → AKPERまたはDIIIの教員, SGPの教員となる。
 将来はDIII + AKTA IIIが主になる。
- 3) AKPER + SOPH 2年 (School of Public Health, 全国に5校あり) →
 AKPERまたはDIII, SI, SGPの教員となる。
- 4) 外国での教育 → AKPERまたはDIII, SI, SII, SIIIの教員となる。

表V-1 SPK, アカデミー校, SGPの教師の養成計画
 (第4次, 開発5ヶ年計画)

施設 \ 年度	1984/1985	1985/1986	1986/1987	1987/1988	1988/1989
SPKの教師					
SGPの卒業生より	160	284	320	-	-
アカデミー校の卒業生より	58	25	-	374	390
現在の教師数	763	981	1,290	1,610	1,984
合計	981	1,290	1,610	1,984	2,374
アカデミー校の教師					
アカデミー校の卒業生より	19	18	100	263	432
現在の教師の数	65	84	172	272	535
合計	84	172	272	535	967
SGPの教師					
アカデミー校の卒業生より	22	-	10	12	4
現在の教師数	28	50	50	60	72
合計	50	50	60	72	76

2 DCNEの概要とその役割

(1) 基本理念の設定

DCNEはCHMEおよびCPETの行う看護職員開発訓練または看護教育訓練プログラムを運営支援し, 以下の理念にもとずき, 機能するとされている。

- 1) 看護は保健システムの一部であり, ヘルスチームのメンバーとしてチームワークの精神をもって機能する。
- 2) 看護は他の専門職と同じく, 社会に対する奉仕であり, そのため看護教育には社会的ニードに対応した要素を含めなければならない。
- 3) 看護教育では, 看護婦の働く場に求められる看護実践を考慮しなければならない。
- 4) 理論と実際を教育の中で関連させ, 看護人材に望まれる質を高めるよう教育とサービ

スは協力し合わなければならない。

- 5) 看護教育は、教育学の最新の概念、原則、方法、技術によって行なわれなければならない。
- 6) 知識・技術のみでなく、態度、動機づけ、価値観などが実践者の行動を決定する。教師はそれにふさわしい役割モデルを提供しなければならない。
- 7) 教室で学んだ知識・技術・態度を実習によって合成、統合、応用できるよう、教師は注意深く計画、実施、監督し評価する必要がある。
- 8) 看護の継続教育では、専門職としての成長発展および看護実践を洗練させるために看護研究の目的、重要性を理解し、発展させなければならない。

(2) 活動および機能

DCNEの活動および機能は以下の項目として示されている。

- 1) 看護婦のための継続教育
- 2) SPK, AKPER, SGP その他保健要員養成校の教育学習教材の開発、作製
- 3) カリキュラム開発
- 4) 監督および技術援助
- 5) 評価および研究
- 6) 看護教育と訓練との調整・協力

(3) 研修コース

研修コースとして、以下の13コースを設けている。

- 1) 内外科看護の教育コース (upgrading course)
- 2) 小児看護の教育コース (upgrading course)
- 3) 精神科看護の教育コース (upgrading course)
- 4) MCH・家族計画の教育コース (upgrading course)
- 5) CHN (Community Health Nurse) の教育コース (upgrading course)
- 6) 看護教育者再教育コース
- 7) AVA開発コース
- 8) 臨床指導者のコース
- 9) カリキュラム編成コース
- 10) 看護婦のための研究の基礎・原則のコース
- 11) 図書管理コース
- 12) 教育管理のコース
- 13) 看護教育の実際

これらのコースの計画は、上層部からの命令により、Committeeが原案を作成、上層部

に提出，承認により実施される。Committeeの構成メンバーは，Chairman 1， secretary 1， technical member 2～3人， administrator 1人で，講師，参加者等もここで選ばれる。これらの中には，本プロジェクトだけでなく，WHO，その他が援助しているもの，今後開かれるものも含まれている。

(4) 予 算

CHMEはDCNEを含めて以下の対策費を予算化している。

看護教育等施設改善対策費 70,660,000Rp (1985/1986)

内訳：① 13,185,000Rp AVビデオ作製費(DCNE)(60分4テーマを予定)

② 15,000,000Rp AKPER修理費

③ 23,000,000Rp テキスト翻訳，購入，看護以外の学校も含まれる。

④ 19,480,000Rp 教材費，看護以外の学校も含まれる。

(5) 組 織

DCNEは，1984年のCBTの組織改革により，CHMEに直結するようになったが，所長が専任でないこと，看護指導者が移動によって減少をきたした事，8種の保健職種の中で看護のみの予算獲得が困難なことなど，いくつかの問題点をもっている。まず，組織の充実により，責任体制がより明確になることを期待したい。

図 V - 2 D C N E 組織図

職員数 23 名

(うち看護職員 5 名) 1985. 7 現在

STRUKTUR ORGANISASI DCNE :

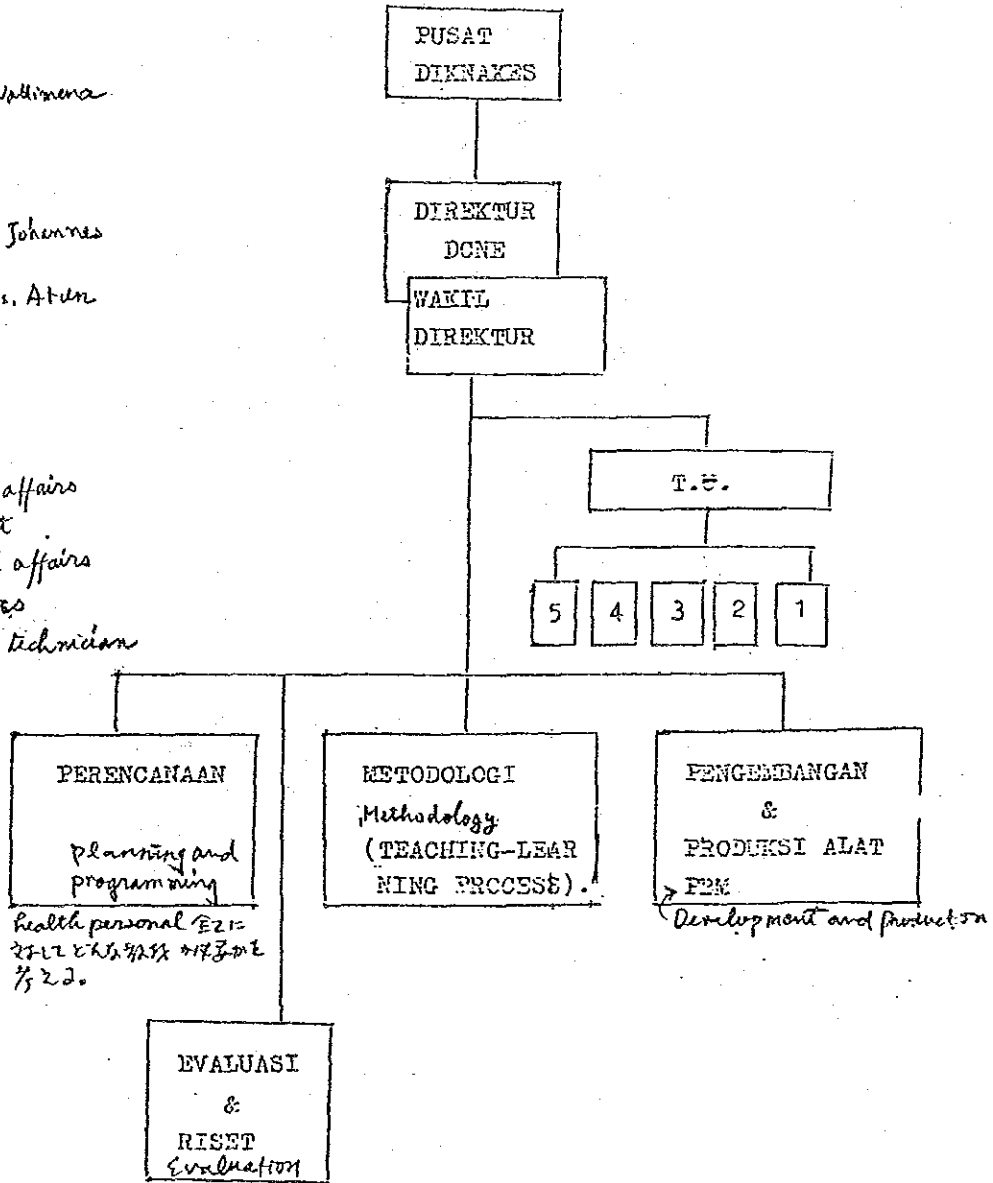
CHME
Director *Dr. Walmiana*

DCNE
Director *Mr. Johannes*

Assistant
Director *Mrs. Atun*

Administration:

1. internal affairs
2. budget
3. personal affairs
4. logistries
5. electric technician



3. 評価会議におけるプロジェクト評価

(1) インドネシア側の評価

Dr. Wattimena (CHME 所長)

- ① DCNEは、research and development centerにしたい。
- ② AVテープ、研修員などにより、技術協力の効果が得られた。
- ③ 教材開発が進んだ。今後は、DCNEはUNICEF、SIとの共同使用により、より発展をはかりたい。
- ④ DCNEは、information systemをもつセンターとして、多くのものをインプットするようにしたい。
- ⑤ DCNEは、アジアセンターの1つとして、教材供給ができるようにと言われていたので、それも考えている。
- ⑥ 看護職の資質向上にプロジェクトは大いに役立った。今後はさらに向上をはかりたい。そのために、さらに日本からの援助を期待する。

Mr. Johannes (DCNE 所長, ジャカルタ SGP 校長を兼務)

- ① DCNEの運営については、あらゆる電気関係について理解できる人の助けがほしい。
- ② AV作成のため、シナリオ書きの専門家がほしい。
看護過程についてのシナリオが現在最も必要性が高いと考えている。

Mr. Djenal (CHME 教育課看護教育係長)

- ① UPDにまでプロジェクトが広がったことはよかった。

(2) チームリーダーによる評価

- ① 2年のプロジェクト延長によって、SGP 3校にも教材機器が配布できた。
- ② SGP 教員によってSGP カリキュラムの改善ができた。
- ③ 協力期間の間に、急速にSPK、AKPERの学校数が増えた。
- ④ さらに5年以上協力が行なわれるならば、インドネシアの看護教育はもっとよくなるであろう。

(3) 評価調査団による評価

- ① 7年間の技術協力により、インドネシア看護教育は大きく発展した。
- ② インドネシア側は技術援助によって、カリキュラム開発、教材作成、図書管理等、いろんな技術・能力を開発することができた。
- ③ DCNE、ウジュンパンダンSGPの建設により、SGPカリキュラムはモデル校においてより内容向上をはかることができ、改善開発された。
- ④ 教育用機材、テキストが作られたことにより、これからは、インドネシア看護婦による教材開発の基盤ができた。

- ⑤ DCNEのセンターとしての機能を活かすことによって、SGP、DIII、AKTAIII、SIなど、看護婦、看護教員養成のための基礎的な検討が適切に行なわれた。
 - ⑥ 看護全般について残された問題として、看護婦のマニパワーの不足、SPKでの教材不足等がみられた。
 - ⑦ SGP教員と実習校、病院、保健所等との協力を密にし、現場と十分な連携をもった教育方法のより一層の開発が期待される。
 - ⑧ DCNE、ウジュンパンダンSGP両施設とも、機材・設備のメンテナンス、またDCNEでの教材開発のためにインドネシア政府による十分な予算措置が必要である。
 - ⑨ プロジェクトは終了するが、DCNEは今後も看護の発展のために中心的役割を果たすことができる。
 - ⑩ 日・イ間の協力関係が、プロジェクトの成功により、今後もより深まるよう期待する。
- (4) プロジェクトの終了について
- ① プロジェクト終了後の希望として、DCNE所長から1～2名のAV関係専門家派遣の希望があった。
 - ② DCNEの機材のメンテナンスについては、プロジェクト終了後はできるだけ国産品を購入し、また、AVスタジオの冷房予算も確保するようにしたい、とのDCNE所長の発言があった。
 - ③ ウジュンパンダンSGP校長は、できればプロジェクトを延長してほしいが、今後は教育充実のために教育実習のモデル校となるSPKを選定したい、との意欲的な発言があった。
- (5) プロジェクトの延長希望について
- ① CHME所長： 2年前にプロジェクト延長として6億Rpの提示をした。延長を希望する。
 - ② 日本大使館： 調査団は引きつづき努力をしようと思うが、イ政府の最終目標をより明らかに具体的に示してほしい。
 - ③ JICAジャカルタ事務所： 2カ月位専門家の滞在延長をするので、その間イ側の将来計画を示してほしい。
 - ④ 調査団： プロジェクトは終了する。イ側の意向についてはその旨報告したい。

VI. 資 料 編

資料 1. (1) 延長討議々事録 (R/D)

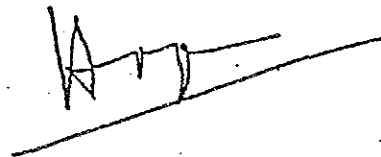
THE RECORD OF DISCUSSIONS CONCERNING
EXTENSION OF THE PERIOD OF
TECHNICAL COOPERATION PROGRAM FOR
THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) dispatched a survey team to the Republic of the Indonesia from June 12 to June 20, 1983 to evaluate the Nursing Education Project which was started on the basis of the Record of Discussions signed between the survey team organized by JICA and the Indonesian authorities concerned on November 3, 1978 and May 28, 1979.

During its stay in the Republic of Indonesia, the team had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned in respect of 1978 - 1983 technical cooperation.

As a result of the discussions, JICA and the Indonesian authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments that the period of the above-mentioned technical cooperation referred to in the document attached hereto should be extended until November 2, 1985.

Jakarta, September 29, 1983



Dr. Hapsara, DPH
Director
Education and Training Center
Ministry of Health.



Hiroshi YAMAMURA
Resident Representative
Japan International Cooperation
Agency

THE ATTACHED DOCUMENT

The Japanese technical cooperation will be conducted, in principle, on the basis of the Record of Discussions signed on November 3, 1978 and May 28, 1979 with the following amendments of the Attached Document and Annex.

- A. IX. TERM OF COOPERATION will be amended as follows :

IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be two years from November 3, 1983.

- B. Activities under the Project of ANNEX I (MASTER PLAN) will be amended as follows :

ANNEX I MASTER PLAN

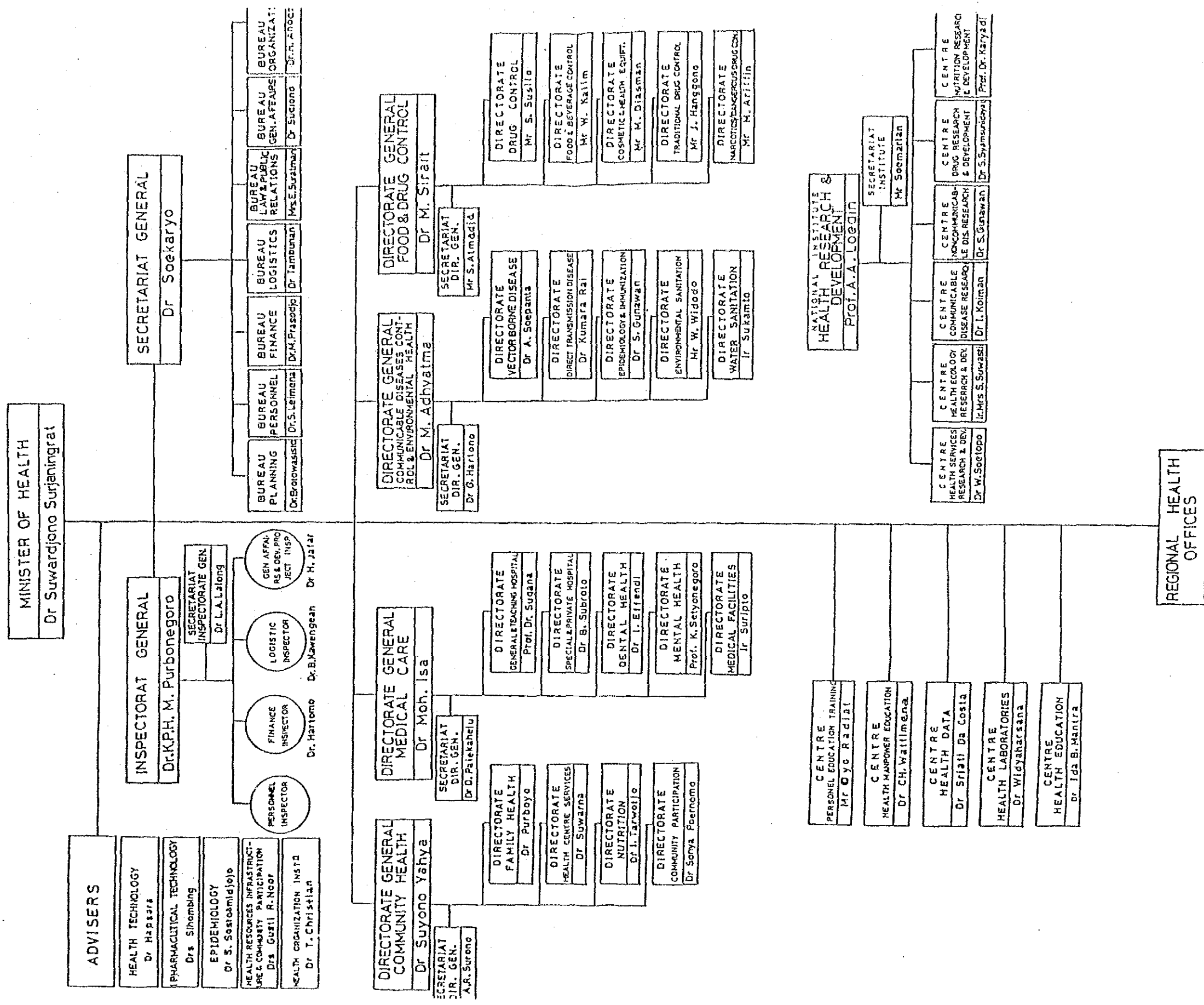
The Government of Japan will cooperate with the Government of the Republic of Indonesia in carrying out the Nursing Education Project with particular reference to the training of teaching staff in nursing education through dispatch of Japanese experts, acceptance of Indonesian personnel for training in Japan, provision of equipment, and provision of special measures for the in-country training programs.

The Project will be focused on the following activities.

- (1) Evaluation and further improvement of the new curriculum for the Health Nurse Teachers Schools.
- (2) Further development of teaching materials for nursing education.
- (3) Strengthening of teaching methodology and school administration in the Health Nurse Teachers Schools.

MINISTRY OF HEALTH, INDONESIA

(Presidential Decree No. 15/1984, 6-March-1984)

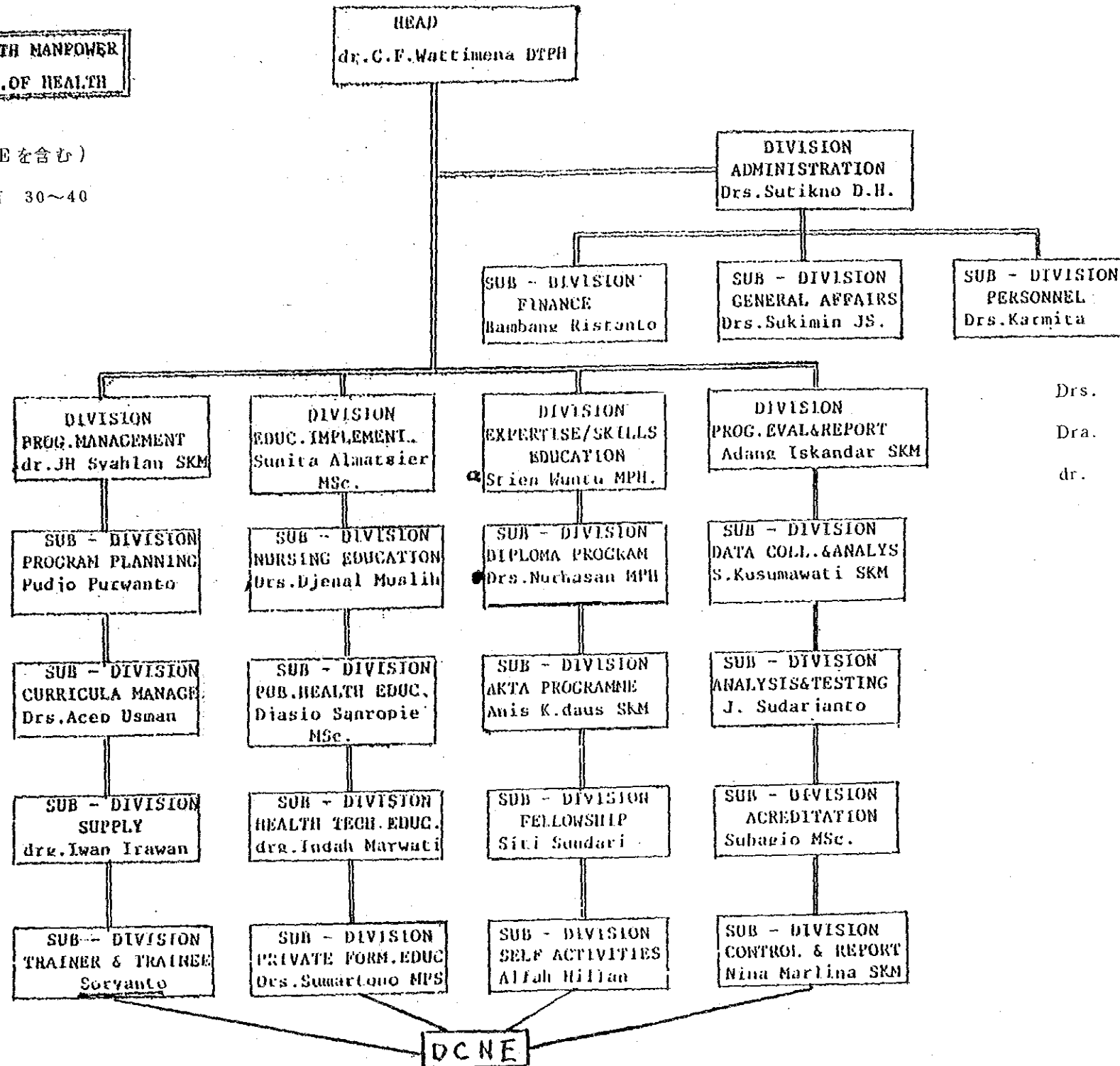


(2) 保健要員教育センターの組織

CENTER FOR HEALTH MANPOWER
EDUCATION. MIN. OF HEALTH

人員 200 (DCNE を含む)

Technical Staff 30~40



Drs. 大卒男

Dra. 大卒女

dr. 医師

資料 3. 看護教育開発センター職員名

LIST OF D.C.N.E. STAFF

June 19 - 1985

NO		Nama	Main Function
1		Johannes Chairanding	Director of D.C.N.E
2		Zr Atun Djaetuni, Bsc	Voice Director of D.C.N.E.
3	+	Zr . Susilawati , Bsc	Staf of PK Program
4		Bawono Sayono	Management of Studio:Audio AVA Produktion
5		W. Saribula	Exekutive Secretari of D.C.N.E and Management for Personal of D.C.N.E
6		M.I.A. Supriyati	House hold / domestic affair in cluding of - Laboratory
7		Hamidah	Management of Library
8		Titi Karsiti	Distribution of teaching materials
9		I. Ketut Disiartha	Management of Equipment DCNE
10		Iskandar Zulkarnaen	<input type="checkbox"/> Domestic Staff
11		O Y O	<input type="checkbox"/> Staff of Studio
12		Endang Bunyamin	<input type="checkbox"/> Staff of Studio
13		Ramli Ismail	<input type="checkbox"/> Staff of Studio
14		B u d i m a n	<input type="checkbox"/> Staff of Studio
15		Wasyiati Djuremi	× Clerical Staff
16		Sota Sinamora.	× Clerical Staff
17		Roida Manurung	× Clerical Staff
18		M u r d o h o	D Security Staff
19		Soeparjo	<input type="checkbox"/> House Hold Staff (Domestic Staff)
20		S U P A R M A N	<input type="checkbox"/> Staff of Library departement
21		S U Y A N T O	<input type="checkbox"/> Domestic Staff (Cleaning Service)
22		MUSYATI	<input type="checkbox"/> Domestic Staff

Director Of D.C.N.E.

(Mr . Johannes Chairanding)

資料 4. 看護教員養成校の教員名

SGP TEACHERS

Name	Position & Speciality	Study in country & abroad
<u>I. SGP Jakarta</u>		
1) Johannes Chairanding	Director	-College of Advanced education in Australia 1981 - JICA Fellowship 1984
2) Jumiarni A.D. B.sc.	Pediatric	- Institute of education 1975/1984
3) Ani Masuhani B.sc.	Med/Sirg	- JICA 1 year 1982/1983
4) Dewi Irawaty B.sc.	Med/Surg	- Teacher's training for Nurse Dalaya Kuala Lumpur 1 year - Study in Phillipine 1965 - 1987
5) Siti Rochmani B.sc.	Mental Health	
6) Suhartati	CHN	
7) Ani Nuraeni	Med/ Surg	
8) Meinita	CHN	
<u>II. SGP Bandung</u>		
1) Cristina Ibrahim PHD. MN.	Director	- WHO Fellowship to Phillipine 1981 - 1985
2) Yosephine, B.sc	Sub Director	
3) M. Hasan, SKM	Med/Surg	- Faculty in Indonesia 1982/1984
4) Harningsih	Pediatric	- JICA Fellowship 1984 7 mon.
5) Sutjahyo, B.sc	Med/Surg	
6) Sulastrí B.sc	Pediatric	- JICA Fellowship 1980/1981
7) Maria Olva B.sc	MCH	
8) Tati Rostah	MCH	
9) Theresia Sudarwati	MCH	
10) Atin Karyatin	G.N.	
<u>III. SGP Surabaya</u>		
1) Soeharti	Director	- JICA Fellowship 1980 1 Month
2) Siger Tamboang	Med/Surg	- JICA Fellowship 1980/1981 1 yr.
3) Murdiani Siger T.	CHN	
4) Emma Pesik Adam	Pediatric	
5) Said Effendie B.sc	Med/Surg	- JICA Fellowship 1983/1984 1 yr.
6) Franciska Riry	Med/Surg	- in Phillipine 1985-1986
7) Radiastuti, B.sc	MCH/F.P.	- JICA Fellowship 1984
<u>IV. SGP Ujung Pandang</u>		
1) Husen Drs.	Director	- JICA Fellowship 1984
2) A. Annas, B.sc SKM	Med/surg	- JICA Fellowship 1981/1982
3) Mardiyah, B.sc SKM	Pediatric	- JICA Fellowship 1980/1981
4) Sabariah Gani, B.sc	CHN	
5) Martini Bdnu, B.sc	Pediatric	- JICA Fellowship 1985/1986 1 yr.
6) Saribulang	MCH/ F.P.	
7) Nurhani Hamid, B.sc	Mental H.N.	
8) Nurhaeni, B.sc	Pediatric	
9) Ny. Alfrida Mallo, B.sc		

資料 5. 看護教員養成校の卒業生数

Year	Jakarta	Bandung	Surabaya	Ujung Pandang	Total
1972/1973	42	0	37	0	79
1973/1974	34	0	47	0	81
1974/1975	44	0	44	36	124
1975/1976	30	29	43	18	120
1976/1977	37	37	46	31	151
1977/1978	34	34	45	25	138
1978/1979	39	0	44	22	105
1979/1980	0	36	42	24	102
1980/1981	39	40	25	22	126
1981/1982	58	56	49	33	196
1982/1983	50	40	34	30	154
1983/1984	44	45	42	32	163
1984/1985	45	44	84	82	255
	496	361	582	355	1,794

資料 6. 保健看護婦学校数

List of SPK (Sekolah Perawat Kesehatan) in Indonesia

No	Province	Name
1.	D.I.Aceh	P 1. Banda Aceh
		P 2. Meulaboh
		P 3. Langsa
		D 4. Lhoksemawe
		AB 5. Kesdam I.M.Banda Aceh
		SW 6. Muhammadiyah Banda Aceh
		SW 7. Yayasan Dayah Bustanil Ulun Langka
2.	Sumatra Utara	P 1. Medan
		P 2. Padang Sidempuan
		P 3. Pematang Siantar
		D 4. Kebejahe
		D 5. Tarutung
		D 6. Gunung Sitoli
		AB 7. Kesdam II.Bukit Barisan Medan
		AB 8. Kesdam II.Bukit Barisan Pematang Siantar
		AB 9. Rumkit Rem 021/DT Binjai
		SW 10. St.Elizabeth Medan
		SW 11. HKBP Balige
		SW 12. Herna Medan
		SW 13. Sitanggung Medan
		SW 14. Glugur Medan
		SW 15. R.S.I.Malahayati Medan
		SW 16. Balimbangan Pematang Siantar
		SW 17. Sembiring Deli Tua
		SW 18. Sitolu Ama Pagubati
		SW 19. Tibing Tinggi
		SW 20. Ellyah Medan
3.	Sumatra Barat	P 1. Padang
		P 2. Bukit Tinggi
		P 3. Solok
		AB 4. Kesdam III/17 Agustus 1945 Padang
		SW 5. Ibnu Sina Bukit Tinggi
		SW 6. Ranah Minang Padang
4.	Sumatra Selatan	P 1. Palembang
		P 2. Batu Raja
		P 3. Lubuk Linggau
		D 4. Balitung
		AB 5. Kesdam IV/Sriwijaya Palembang

No	Province	Name
		SW 6. Perdhaki Kharitas Palembang SW 7. P.P.N.I. Palembang SW 8. Pangkal Pinang SW 9. Muhammadiyah
5.	Riau	P 1. Pekanbaru P 2. Tanjung Pinang
6.	Jambi	P 1. Jambi
7.	Bengkulu	P 1. Bengkulu
8.	Lampung	P 1. Tanjung Karang P 2. Metro SW 3. Bait Al Hikamah Bandar Lampung
9.	D.K.I. Jaya	P 1. Pulo Mas Jakarta P 2. Fatmawati Jakarta P 3. Persahabatan Jakarta P 4. R.S.A.B. Harapankita Jakarta P 5. R.S.C.M. Jakarta P 6. R.S,A,L, Minto Harjo Jakarta AB 7. Gatot Subroto Jakarta AB 8. Kesdam V/Jaya (Moh Ridwan M) Jakarta AB 9. Halim Perdanakusuma SW 10. Husada Jakarta SW 11. Pelni Petambutan Jakarta SW 12. Sumber Waras Jakarta SW 13. St. Carclus Jakarta SW 14. R.S.P.P. Jakarta SW 15. R.S. Islam Jakarta SW 16. R.S. Cikini Jakarta SW 17. R.S. Yayasan Jakarta SW 18. Atma Jaya Jakarta SW 19. Satria Jaya Jakarta SW 20. Koja Jakarta SW 21. R.S.J.R. Jakarta SW 22. Harum Jakarta SW 23. Panca Karsa Jakarta SW 24. Yayasan Jalan Kimia SW 25. Budi Kemuliaan
10.	Jawa Barat	P 1. Jl.Prof. Eykman 38 Bandung P 2. Sitanala Tangerang P 3. Pamitran Cirebon P 4. Tasikmalaya P 5. Rangkasbitung

No	Province	Name
		P 6. Bogor
		P 7. Karawang
		D 8. Sukabumi
		D 9. Indramayu
		D 10. Sumedang
		D 11. Garut
		D 12. Serang
		D 13. Cianjur
		AB 14. Dustira Cimahi
		AB 15. Lanu Sulaeman Bandung
		SW 16. Borrowmeus Bandung
		SW 17. Advent Bandung
		SW 18. Kebonjati Bandung
		SW 19. Immanuel Bandung
		SW 20. Missi Lebak Rangkasbitung
		SW 21. Budi Luhur Cimahi
		SW 22. Muhammadiyah Bandung
		SW 23. P.P.N.I. Bandung
		SW 24. Muhammadiyah Tasikmalaya
		SW 25. Muhammadiyah Cirebon
11.	Jawa Tengah	P 1. Kariadi Semarang
		P 2. Purwokerto
		P 3. Surakarta
		P 4. Tegalyoso Klaten
		P 5. Blora
		P 6. Pekalongan
		P 7. Magelang
		P 8. Wonosobo
		P 9. Kendal
		P 10. Kudus
		AB 11. Kesdam VII Diponegoro Magelang
		SW 12. Elizabeth Semarang
		SW 13. Telogorejo Semarang
		SW 14. Panti Wilasa Semarang
		SW 15. Ngesti Waluya Parakan
		SW 16. Aisyiyah Sursakarta
		SW 17. P.P.N.I. Semarang
		SW 18. P.P.N.I. Surakarta
		SW 19. Kardinal Tegal
		SW 20. Aisyiyah P.K.U. Muhammadiyah Pekalongan
		SW 21. Muhammadiyah Kudus

No	Province		Name
12.	D.I. Jogjakarta	P SW SW SW SW	1. Ambarukmo Jogjakarta 2. Panti Rapih Jogjakarta 3. Bethesda Jogjakarta 4. Aisyiyah R.S.P.K.U. Muhammadiyah Jogjakarta 5. Karya Husada Jogjakarta
13.	Jawa Timur	P P P P P P P P P D D D AB AB SW SW SW SW SW SW SW SW SW SW	1. Sutomo Surabaya 2. Celaket Malang 3. Sidoarjo 4. Bangkalan 5. Soebandi Jember 6. Bliter 7. Magetan 8. Lawang 9. Gambiran Kediri 10. Bojonegoro 11. Gresik 12. Madiun 13. R.S.A.L. Surabaya 14. Soepraoen Malang 15. Adi Husada Surabaya 16. Islam Surabaya 17. Panti Waluya Sawahan Malang 18. William Both Surabaya 19. Baptis Kediri 20. Mardi Santoso Surabaya 21. Vicentius A. Paulo Surabaya 22. St. Khodijah Sepanjang 23. Soebandi Jember 24. Gambiran Kediri
14.	Bali	P AB SW	1. Denpasar 2. Ksdam XVI Udayana Denpasar 3. P.P.N.I. Denpasar
15.	Nusa Tenggara Barat	P P SW	1. Mataram 2. Bima 3. Islam Mataram
16.	Nusa Tenggara Timur	P P SW	1. Prof.dr.W.Z.Yohannes Kupang 2. Ende 3. St. Elizabeth Lela Maumere Flores

No	Province		Name
17.	Maluku	P	1. Ambon
		P	2. Ternate
		AB	3. Kesdam XV Merdeka Ambon
18.	Kalimantan Selatan	P	1. Ulin Banjarmasin
		AB	2. Kesdam X/L.M. Banjarmasin
		SW	3. Suaka Insan Banjarmasin
19.	Kalimantan Barat	P	1. Sei Jawi Pontianak
		P	2. Singkawang
		SW	3. Islam Pontianak
		SW	4. Dharma Insan Pontianak
20.	Kalimantan Tengah	P	1. Palangkaraya
21.	Kalimantan Timur	P	1. Samarinda
		P	2. Balikpapan
		SW	3. Dirgahayu Samarinda
22.	Sulawesi Selatan	P	1. Ujung Pandang
		P	2. Pare Pare
		D	3. Labuang Baji Ujung Pandang
		AB	4. Kesdam XIV Hasanuddin Ujung Pandang
		AB	5. Bhayangkara Ujung Pandang
		SW	6. Stella Maris Ujung Pandang
		SW	7. Muhammadiyah Ujung Pandang
23.	Sulawesi Tenggara	P	1. Kendari
24.	Sulawesi Tengah	P	1. Palu
		P	2. Poso
		P	3. Luwuk
		SW	4. Bala Keselamatan Palu
25.	Sulawesi Utara	P	1. Gunung Wenang Manado
		P	2. Gorontalo
		AB	3. Kesdam XIII Manado
		SW	4. Gunung Maria Tomohon
		SW	5. Bethesda Tomohon
26.	Irian Jaya	P	1. Jayapura
		P	2. Sorong
		P	3. Merauke
		P	4. Biak
27.	Timor Timur	P	1. Dilli

P ; Pemerintah Pusat
D : Pemerintah Daerah

AB : ABRI
SW : Swasta

TOTAL 194

資料 7. AKPER (アカデミー) 学校数

List of AKPER (Akademi Perawatan) in Indonesia

No	Province		Name
1.	D.I. Aceh	P	1. Banda Aceh
2.	Sumatra Utara	SW	1. Dharma Agung Medan
3.	Sumatra Barat	D	1. Padang
4.	Sumatra Selatan	P	1. Palembang
6.	Jambi	P	1. Jambi
8.	Lampung	P	1. Tanjung Karang
9.	D.K.I. Jaya	P SW SW SW SW SW	1. Ji. Kimia 17 Jakarta 2. R.S.J.G.I. Cikini Jakarta 3. St. Carolus Jakarta 4. Islam Jakarta 5. AS-Syafiiyah Jakarta 6. Setria Jaya Jakarta
10.	Jawa Barat	P AB SW SW	1. Bandung 2. Cimahi 3. Advent Bandung 4. P.P.N.I. Bandung
11.	Jawa Tengah	P SW SW SW	1. Semarang 2. Setria Jaya Surakarta 3. Setria Jaya Semarang 4. Muhammadiyah Semarang
12.	D.I. Jogjakarta	D	1. Jogjakarta
13.	Jawa Timur	D SW	1. Malang 2. Adi Husada SURabaya
18.	Kalimantan Selatan	P	1. Banjarmasin
22.	Sulawesi Selatan	P	1. Ujung Pandang
25.	Sulawesi Utara	P	1. Manado

TOTAL 26

